

乳牛の子宮炎・子宮内膜炎の 診断、治療、予防 に関する全国アンケート

大滝 忠利

家畜感染症学会 事務局

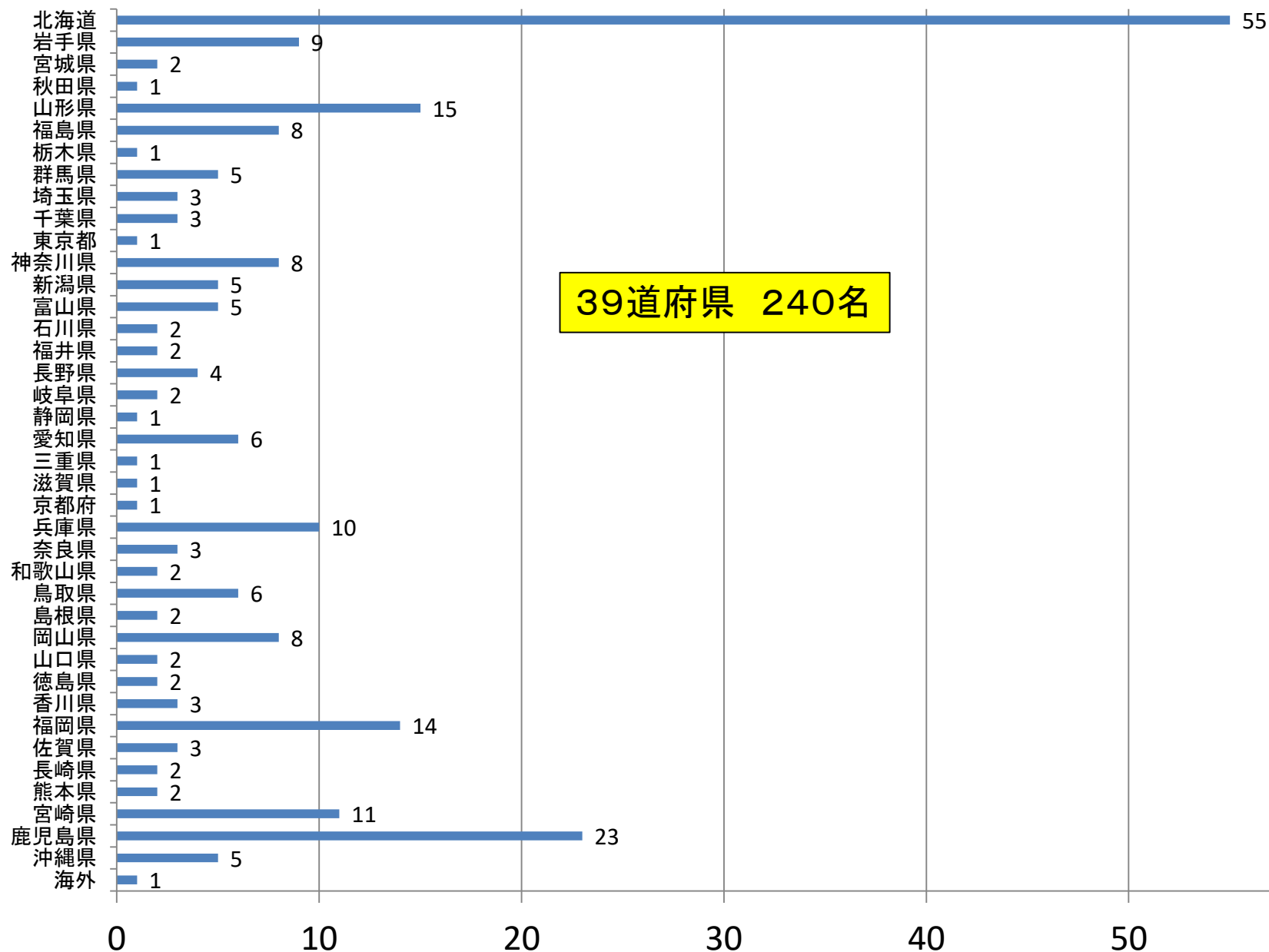
日本大学 生物資源科学部 獣医学科

[はじめに]

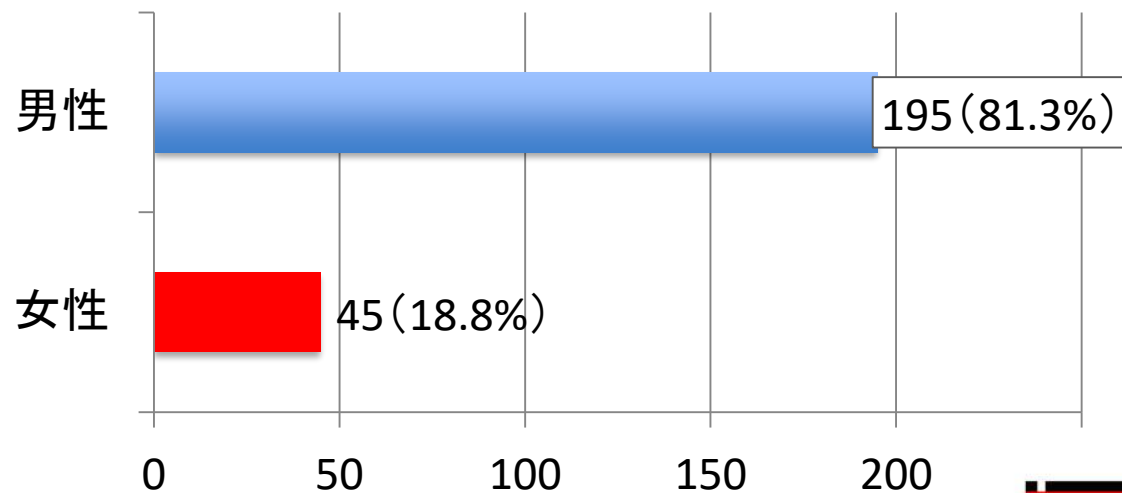
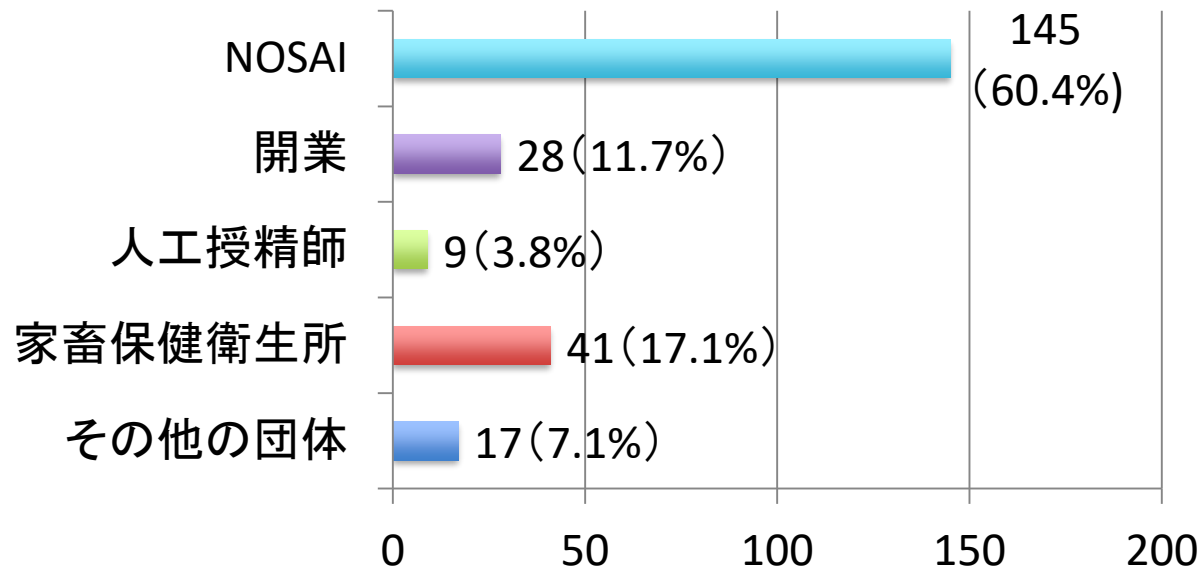
- ・牛の繁殖成績を低下させる要因の一つに炎症性子宮疾患が挙げられる。
- ・炎症性子宮疾患は、子宮炎、子宮内膜炎および子宮蓄膿症に分類される。
- ・子宮疾患では、分娩後の正常な子宮回復過程から逸脱し、子宮の回復が遅延する牛を摘発することが診断の基本となる。
- ・近年、炎症生子宮疾患による卵巣機能異常発生のメカニズムが報告されており、繁殖研究領域では着目を浴びつつある。
- ・今回、「乳牛の子宮炎・子宮内膜炎の診断、治療、予防に関する全国アンケート」を臨床獣医師の協力をもとに実施し、以下の回答が得られたので報告する。

アンケート結果

(i) 回答者情報(参加地域)

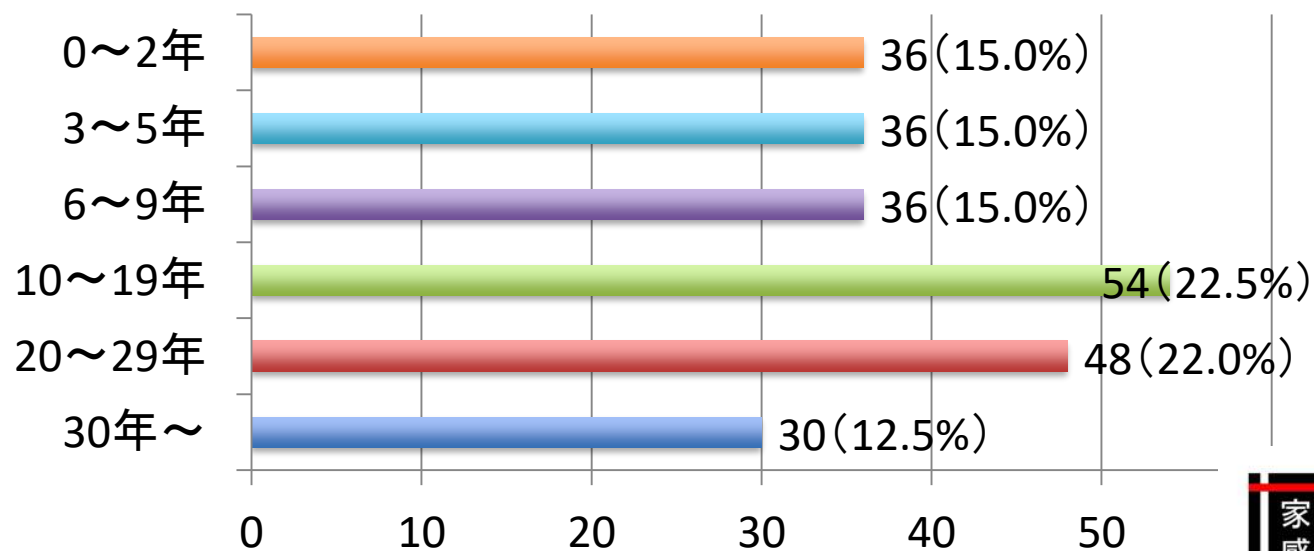
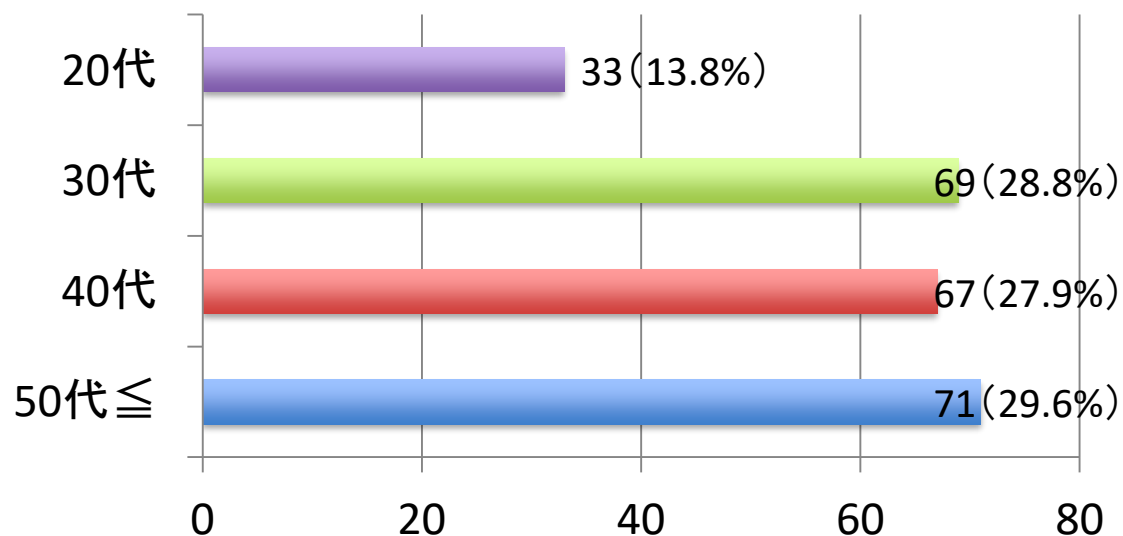


アンケート結果 (i) 回答者情報(所属・男女比)



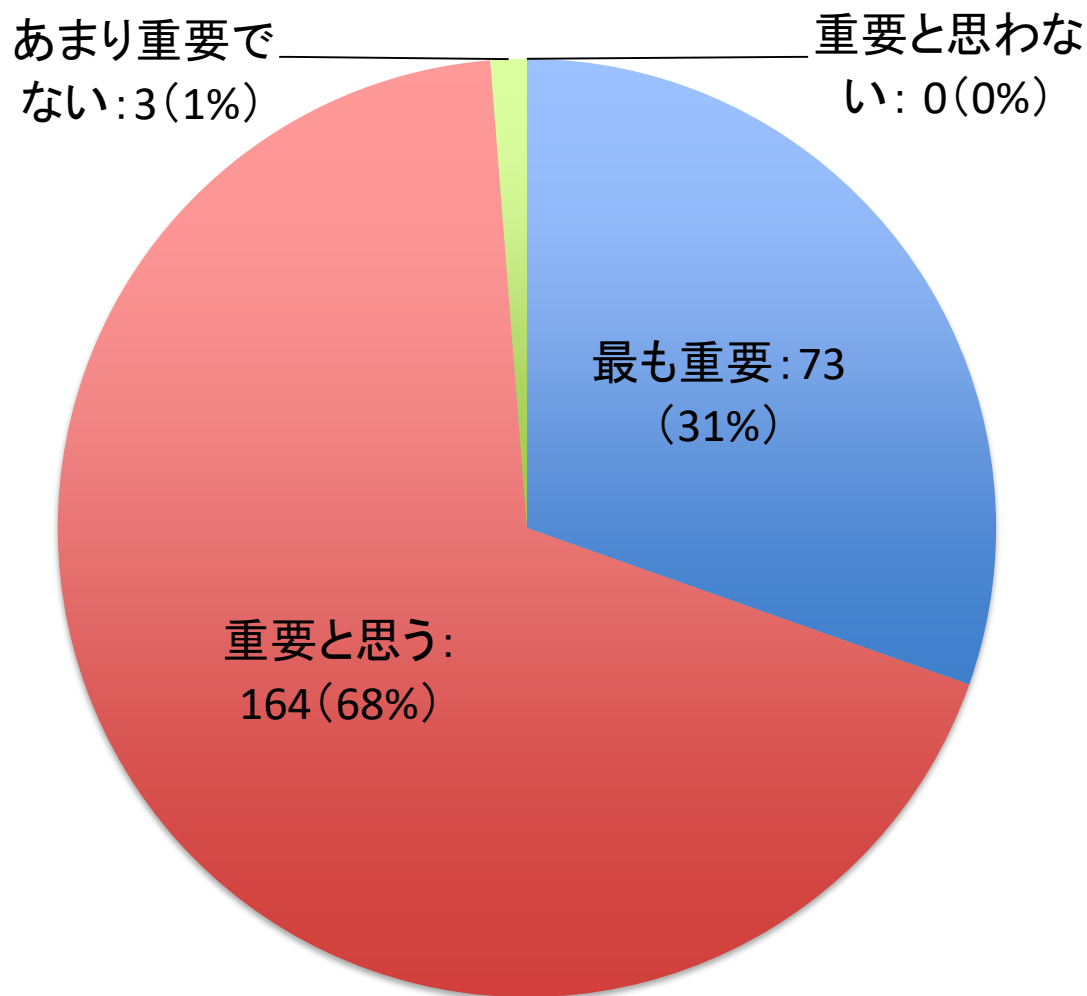
アンケート結果

(i) 回答者情報(年齢・臨床経験年数)

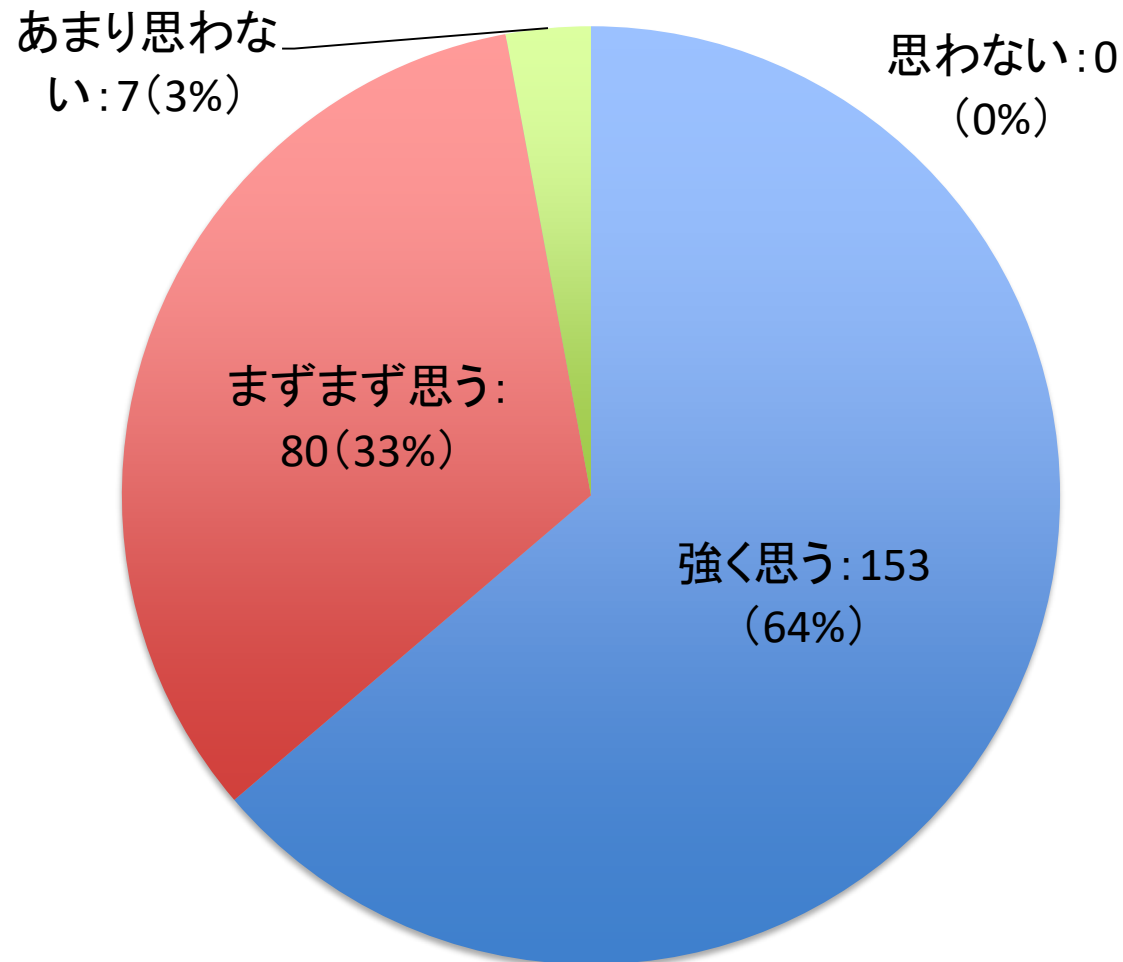


(ii) アンケート結果

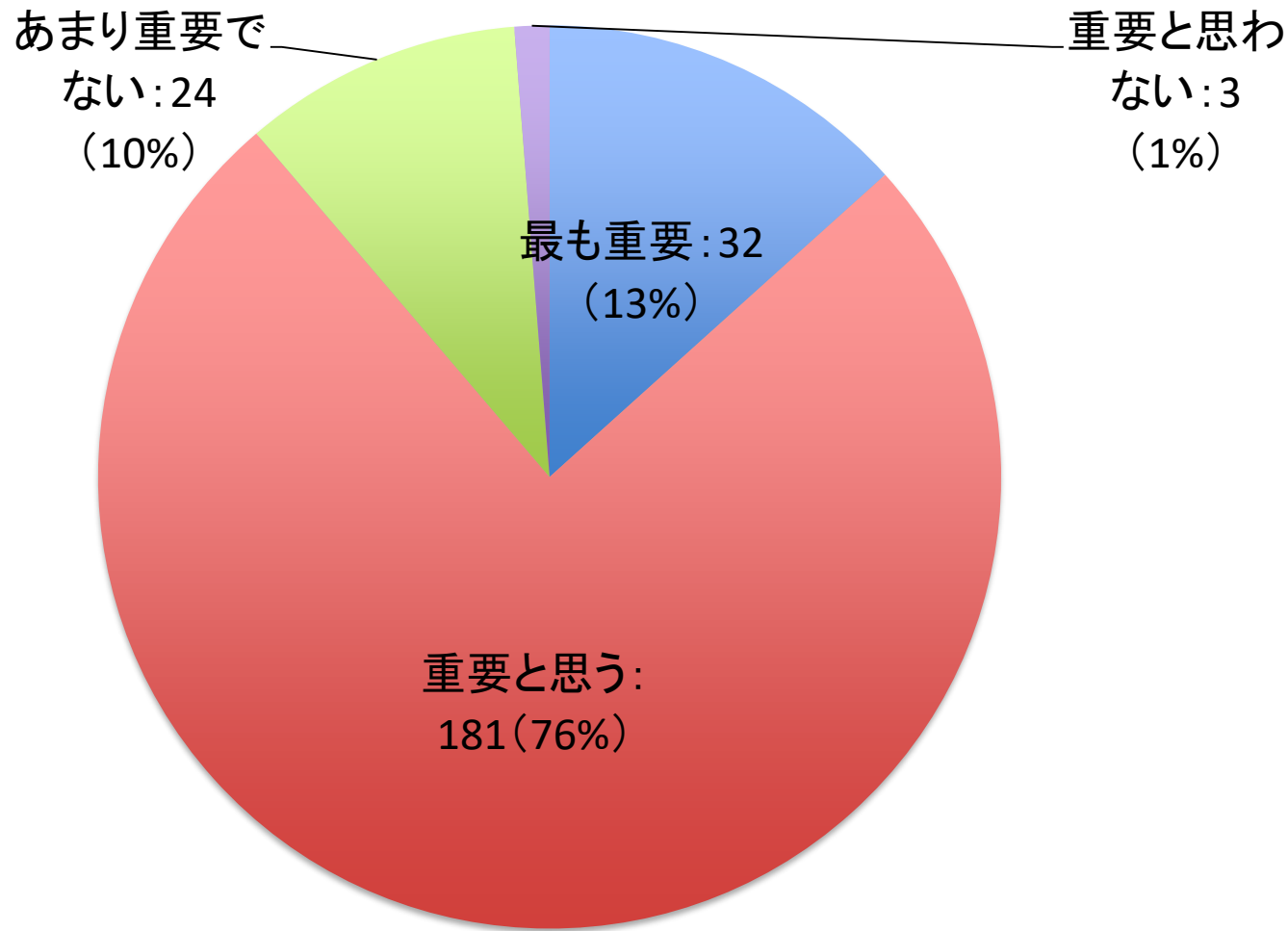
(1) あなたにとって繁殖障害は乳牛の疾患の中でどのくらい重要な疾病ですか？(回答は1つ)



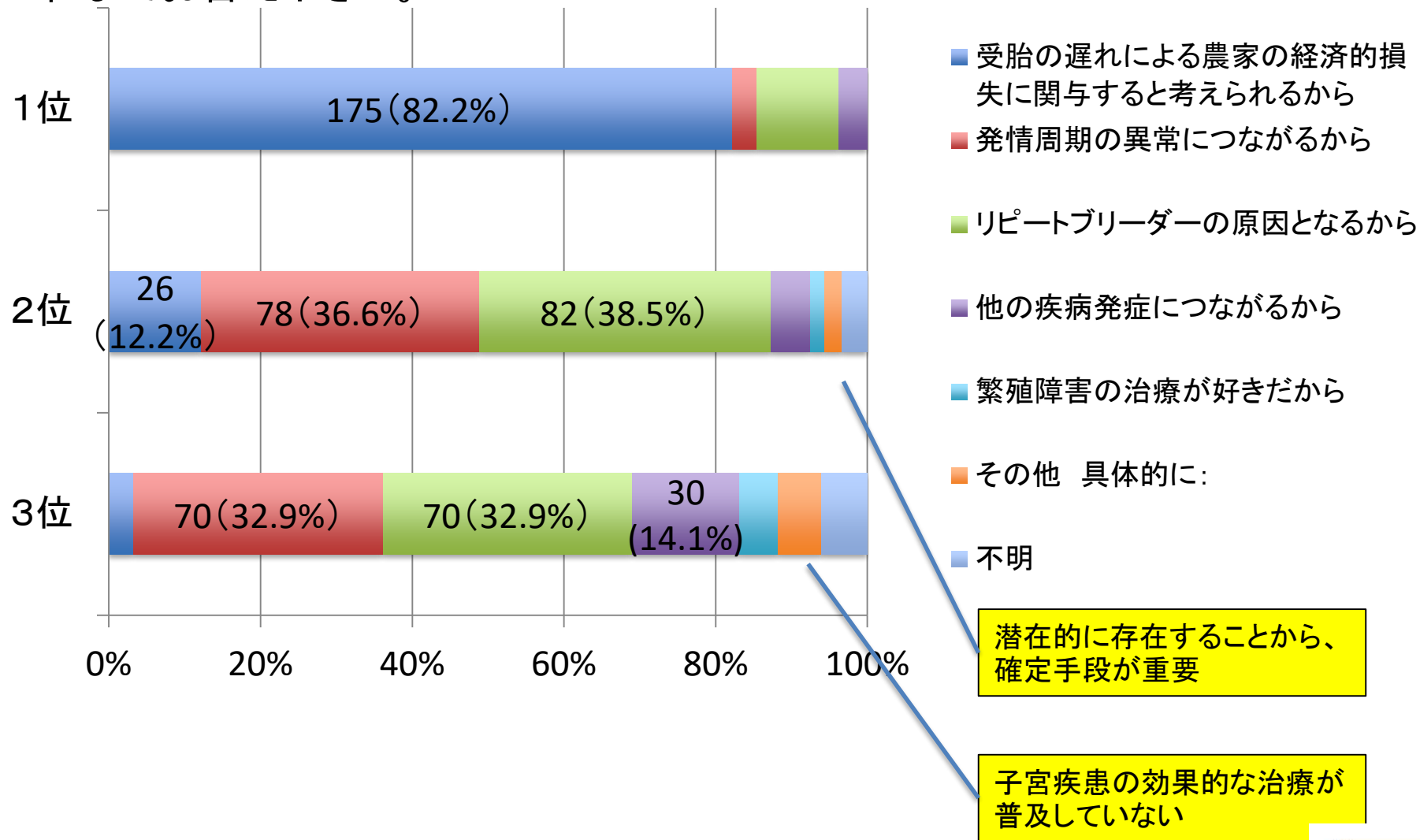
(2) あなたは繁殖障害低減のために力を注ごうと思いますか？(回答は1つ)



(3)あなたにとって子宮炎および子宮内膜炎は繁殖障害の中でどのくらい重要な疾病ですか？(回答は1つ)



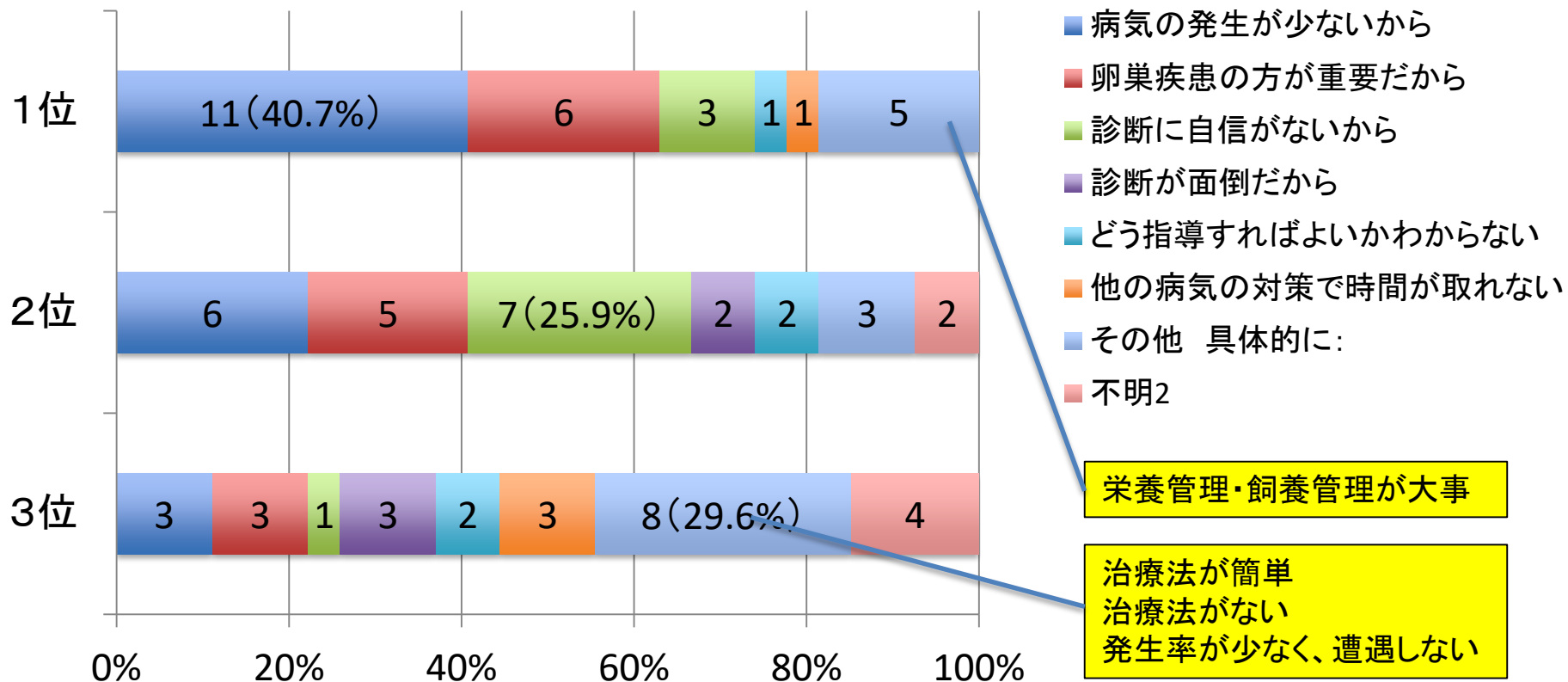
(4) 前問で「最も重要」「重要と思う」と答えた方は、その理由を1～3位までお答え下さい。



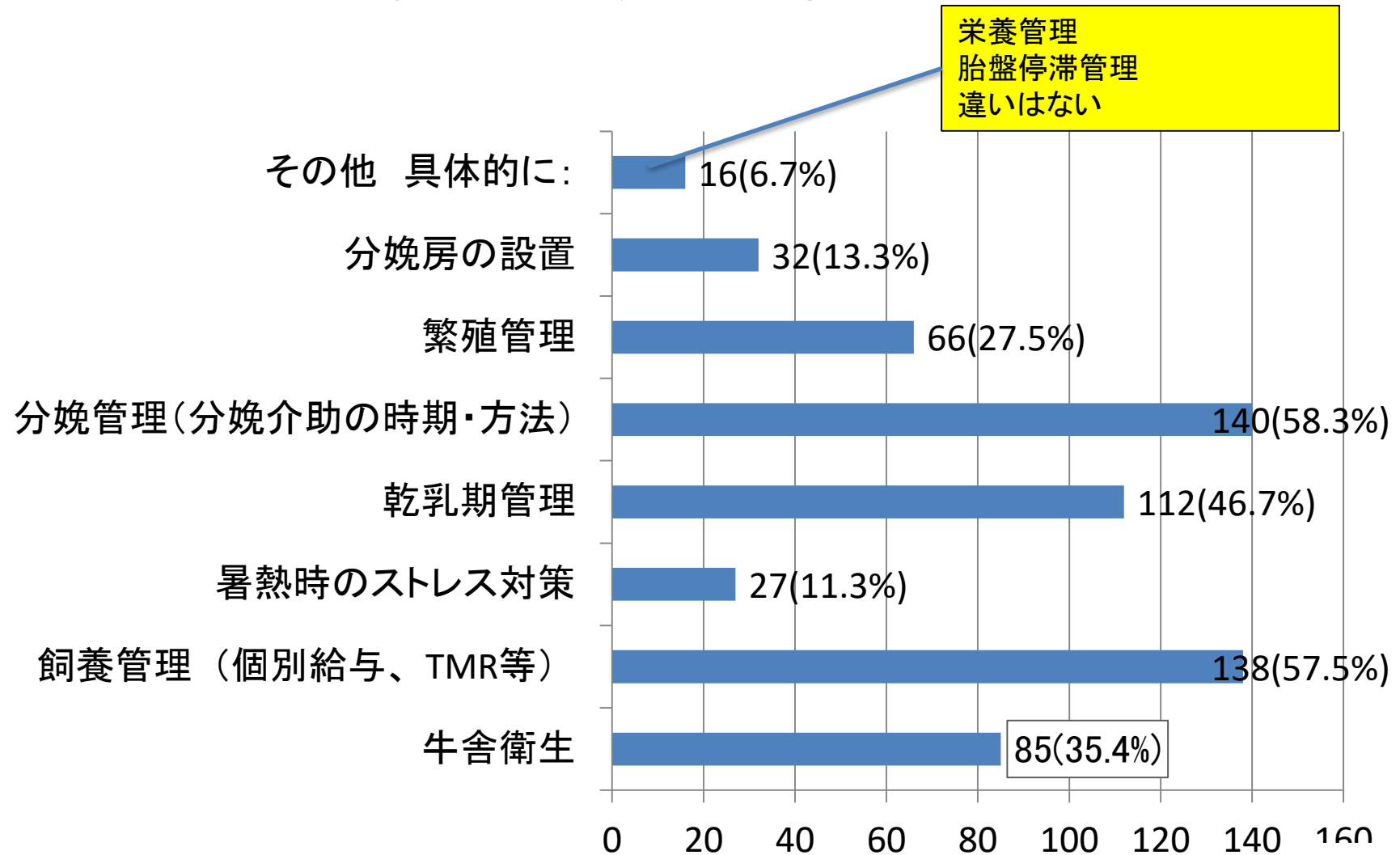
潜在的に存在することから、
確定手段が重要

子宮疾患の効果的な治療が
普及していない

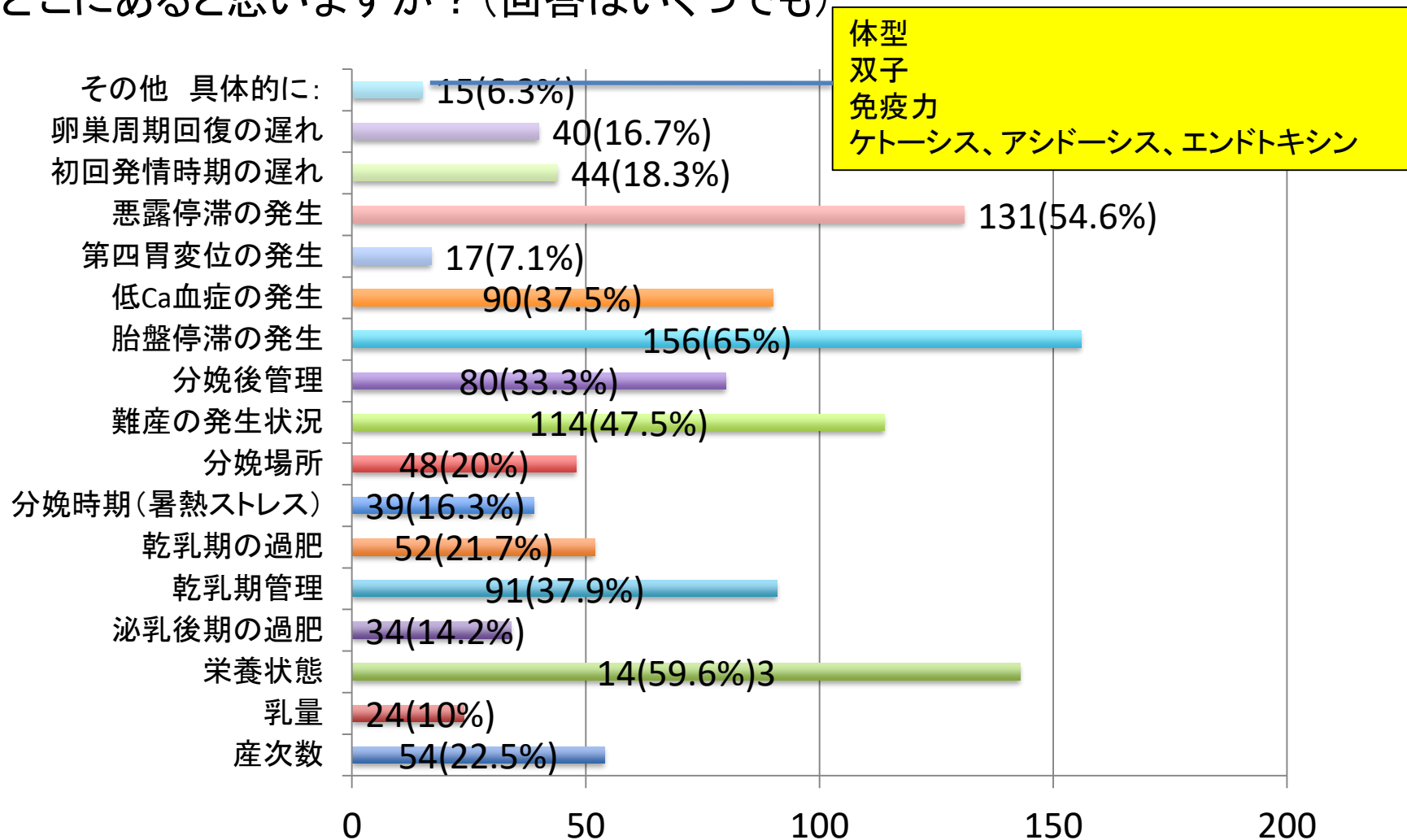
(5) 前問で「あまり重要でない」「重要と思わない」と答えた方は、その理由を1～3位までお答え下さい。



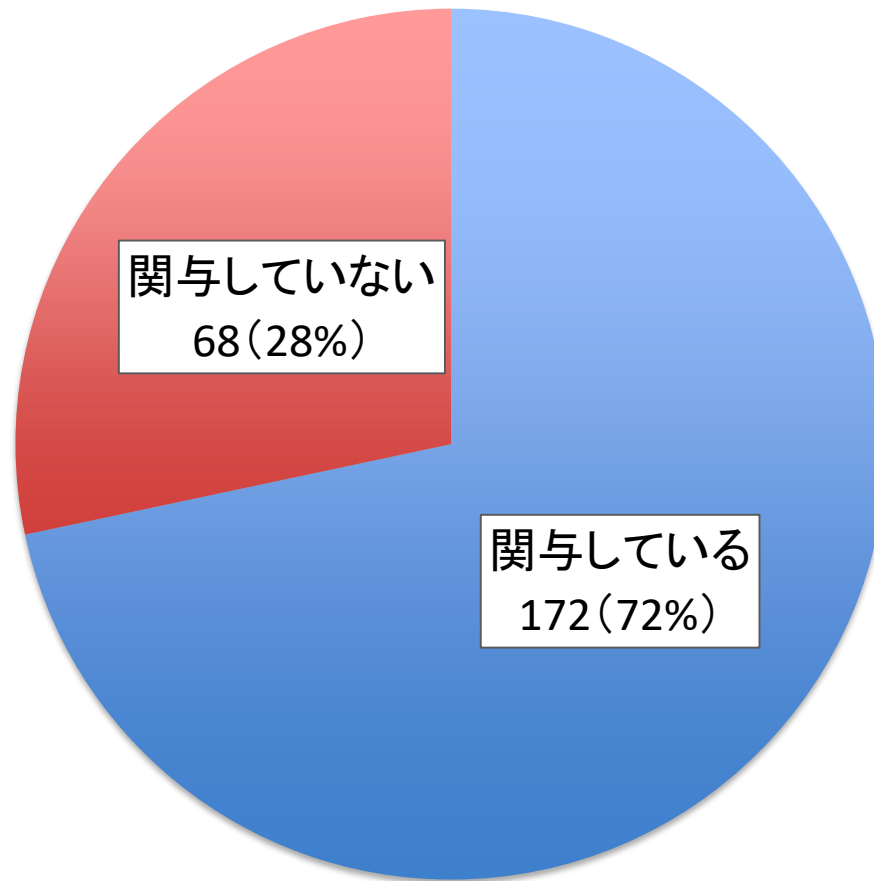
(6) 子宮炎および子宮内膜炎の多い農家と少ない農家での飼養管理形態のちがいはどこにあると思いますか？（回答はいくつでも）



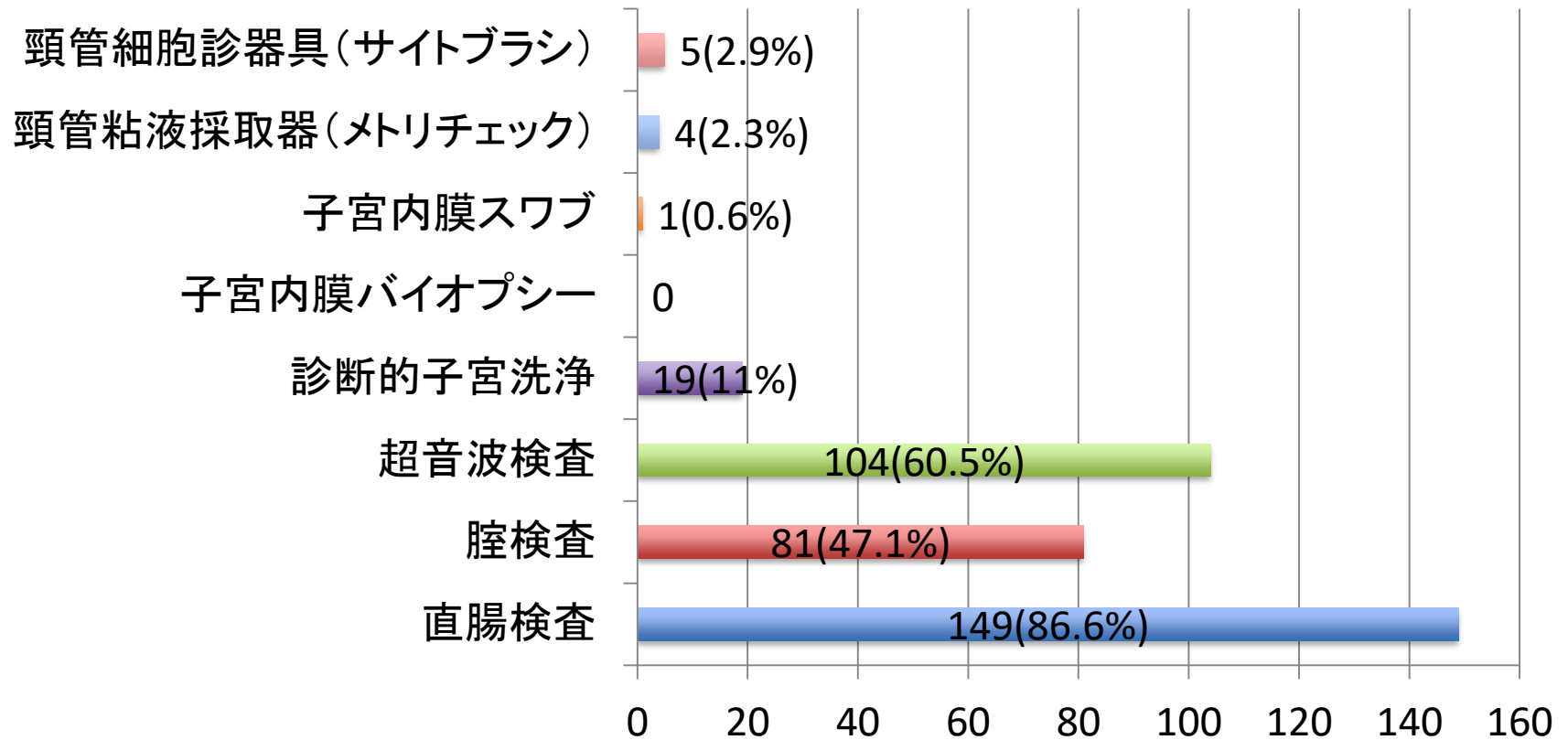
(7) 子宮炎および子宮内膜炎になりやすい牛となりにくい牛でのちがいはどこにあると思いますか？(回答はいくつでも)



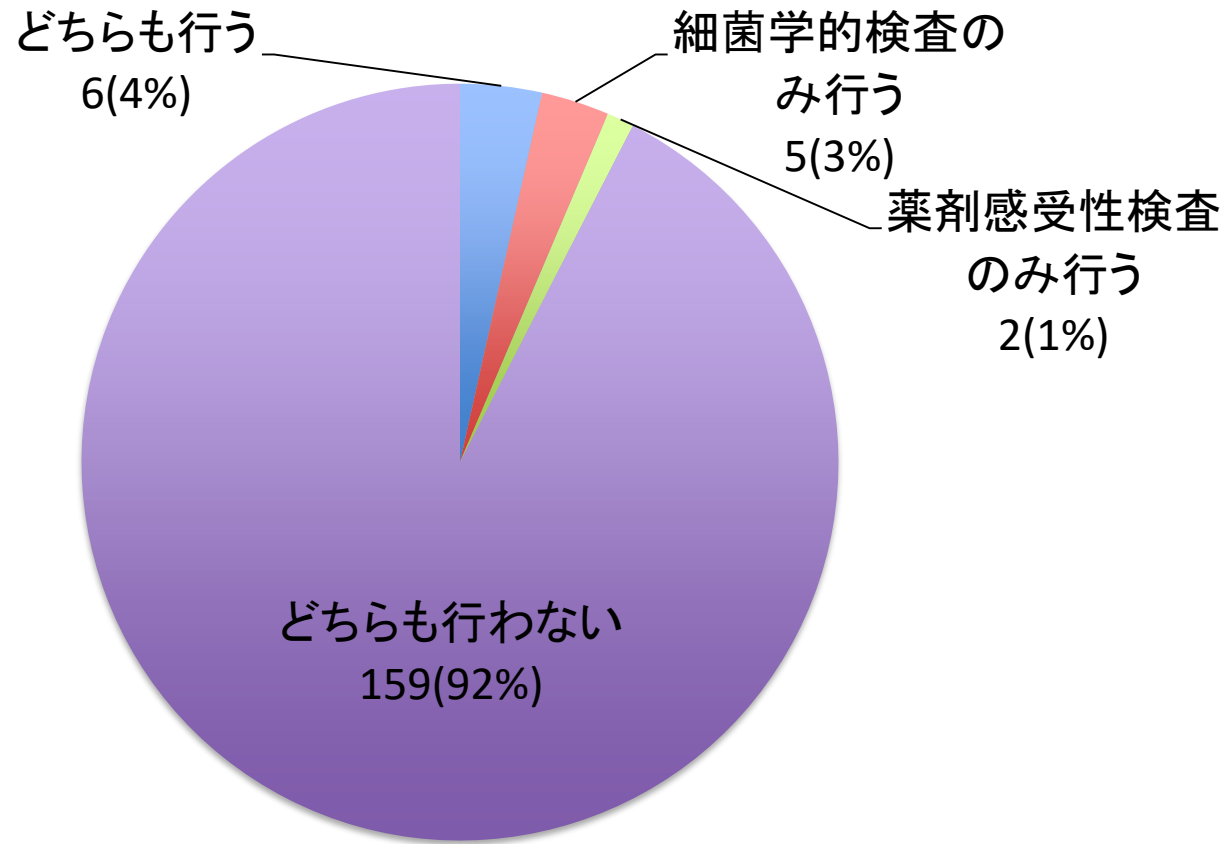
(8)あなたは日常業務で子宮炎・子宮内膜炎の診断・治療に関与していますか。(回答は1つ)【子宮炎・子宮内膜炎の診断について】



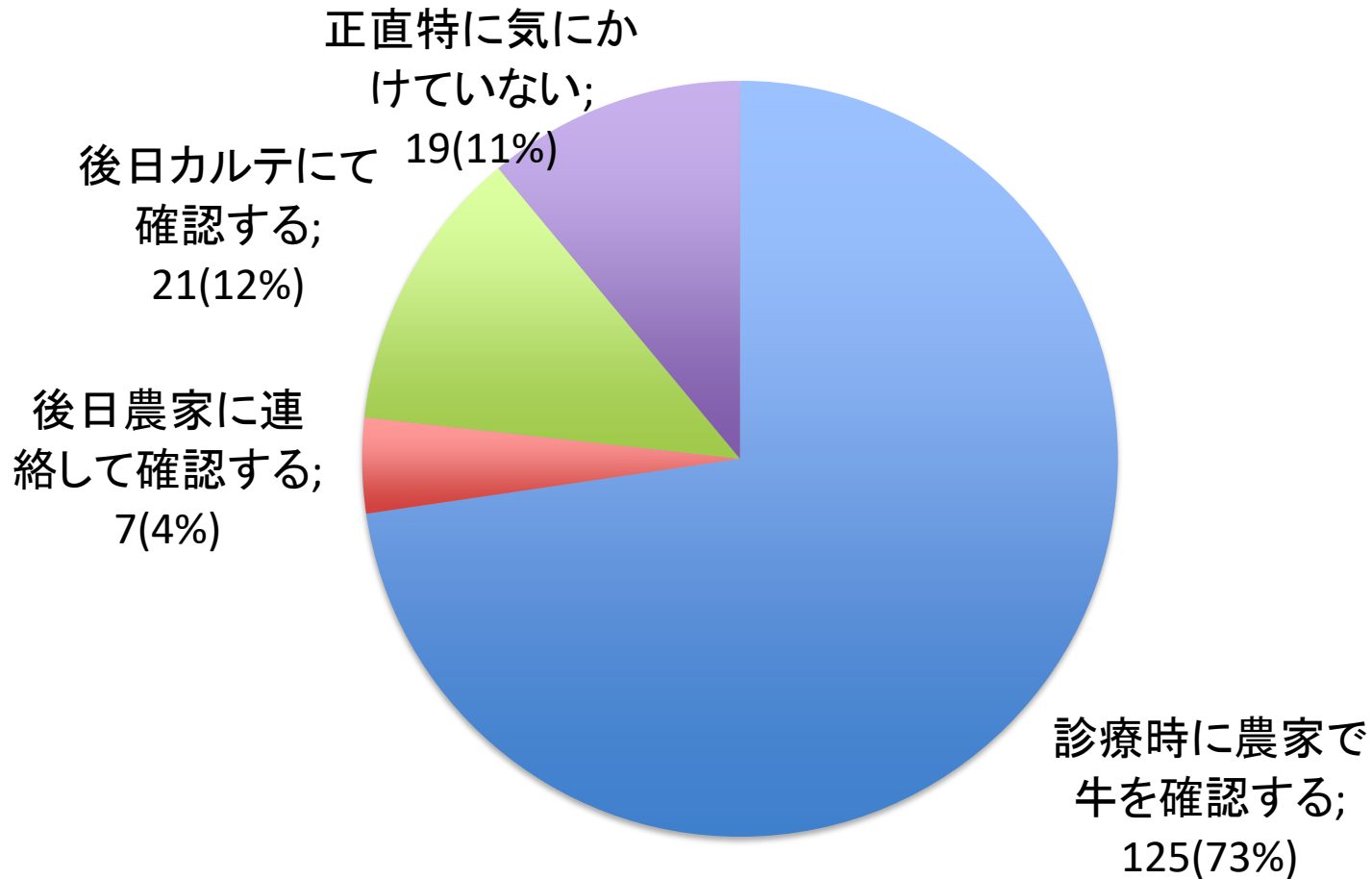
(9)あなたは子宮炎・子宮内膜炎の診断をどのような手法で確認していますか？(診断に利用しているものを全て選択して下さい。)(回答はいくつでも)



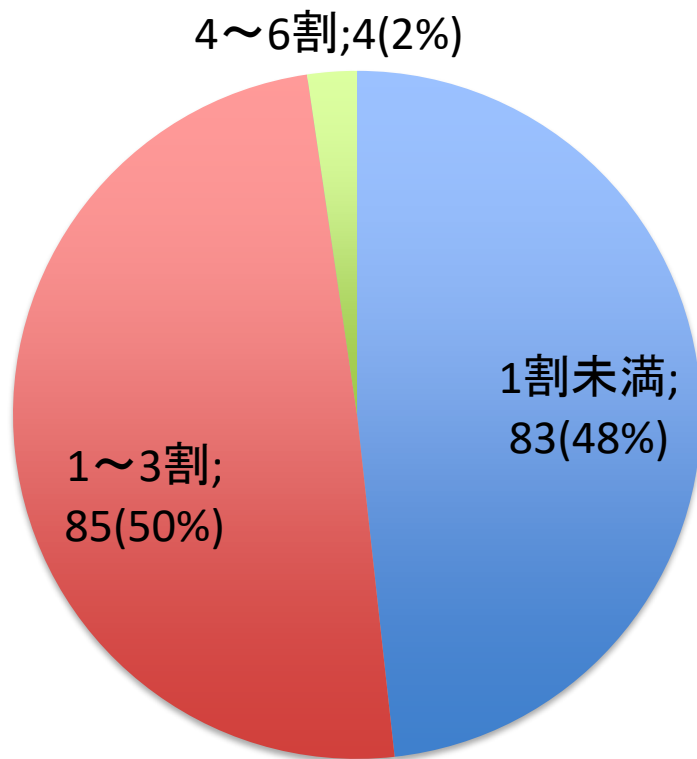
(10)子宮洗浄回収液、外子宮口漏出液、子宮腔のスワブや子宮内膜バイオプシー片について、細菌学的検査および薬剤感受性検査を行いますか？(回答は1つ)



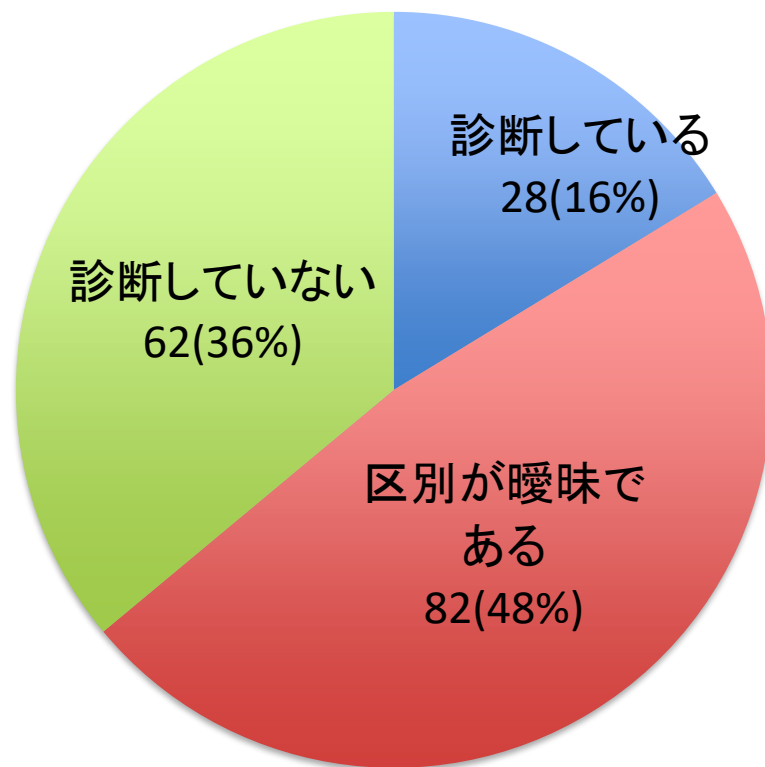
(11) あなたは子宮炎・子宮内膜炎の治療後の受胎などをどのような手段で確認していますか？最も当てはまるものを選択下さい。(回答は1つ)



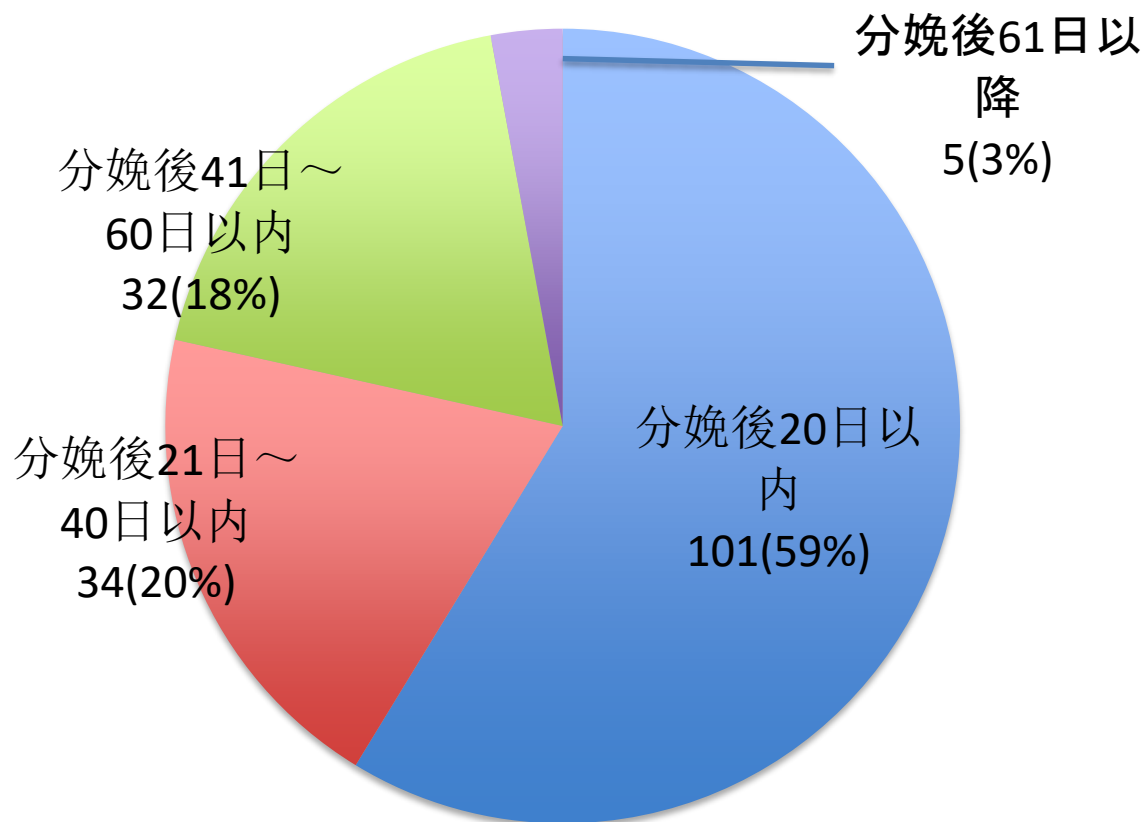
(12) 昨年1年間で、あなたが診療した農家の牛で、何割くらいで子宮炎または子宮内膜炎が見られましたか？(回答は1つ)



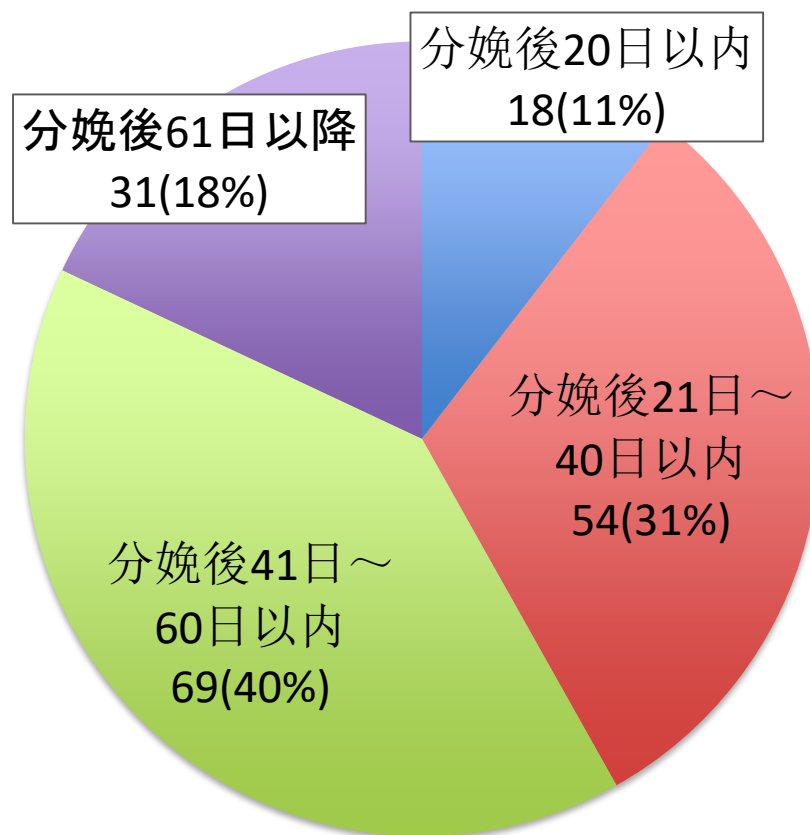
(13)あなたは子宮疾患として、子宮炎(炎症が子宮筋層までおよぶもの。産褥性子宮炎が多い。)、子宮内膜炎(子宮内膜の炎症)の各々を診断(類症鑑別)していますか？(回答は1つ)



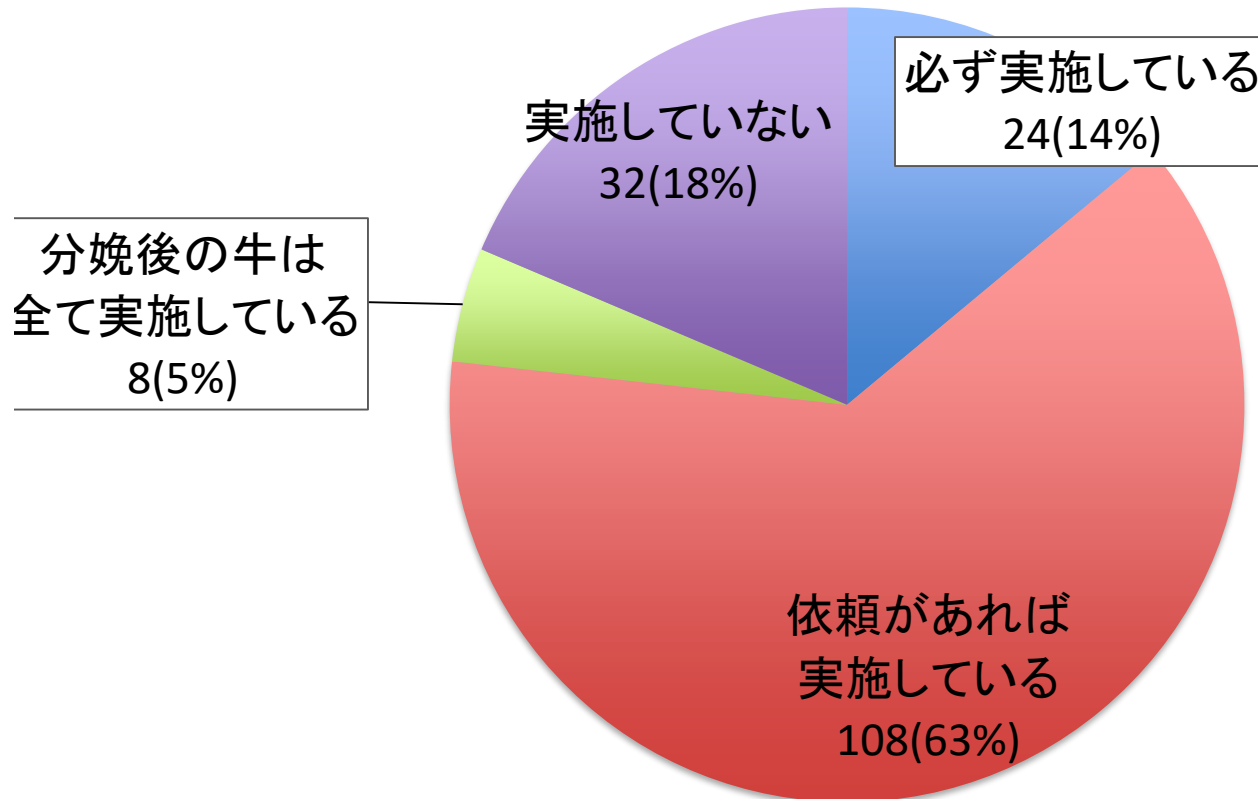
(14) あなたの担当している農家で子宮炎の発症時期が最も多いのはどの時期ですか？(回答は1つ)



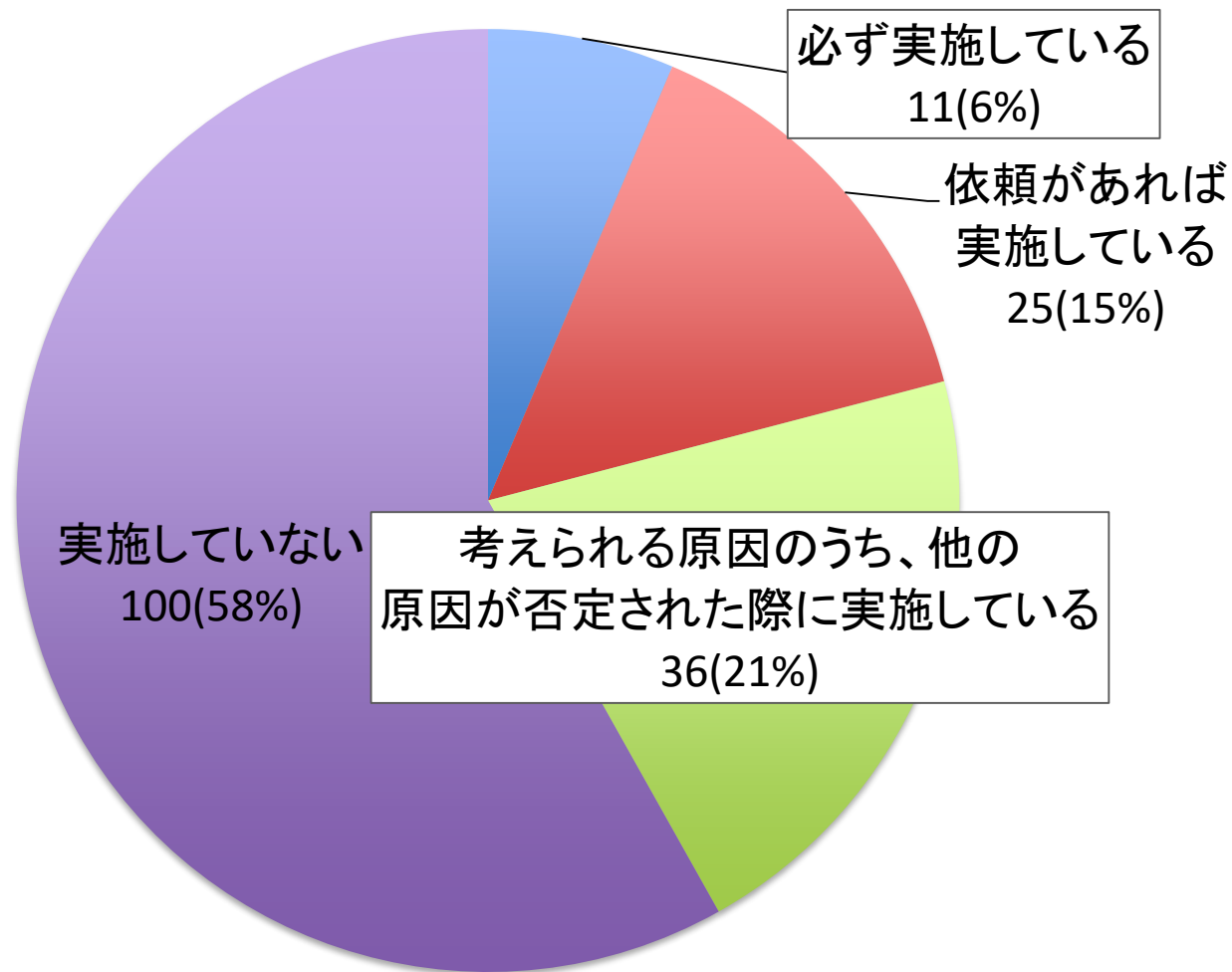
(15) あなたの担当している農家で子宮内膜炎の発症時期が最も多いのはどの時期ですか？(回答は1つ)



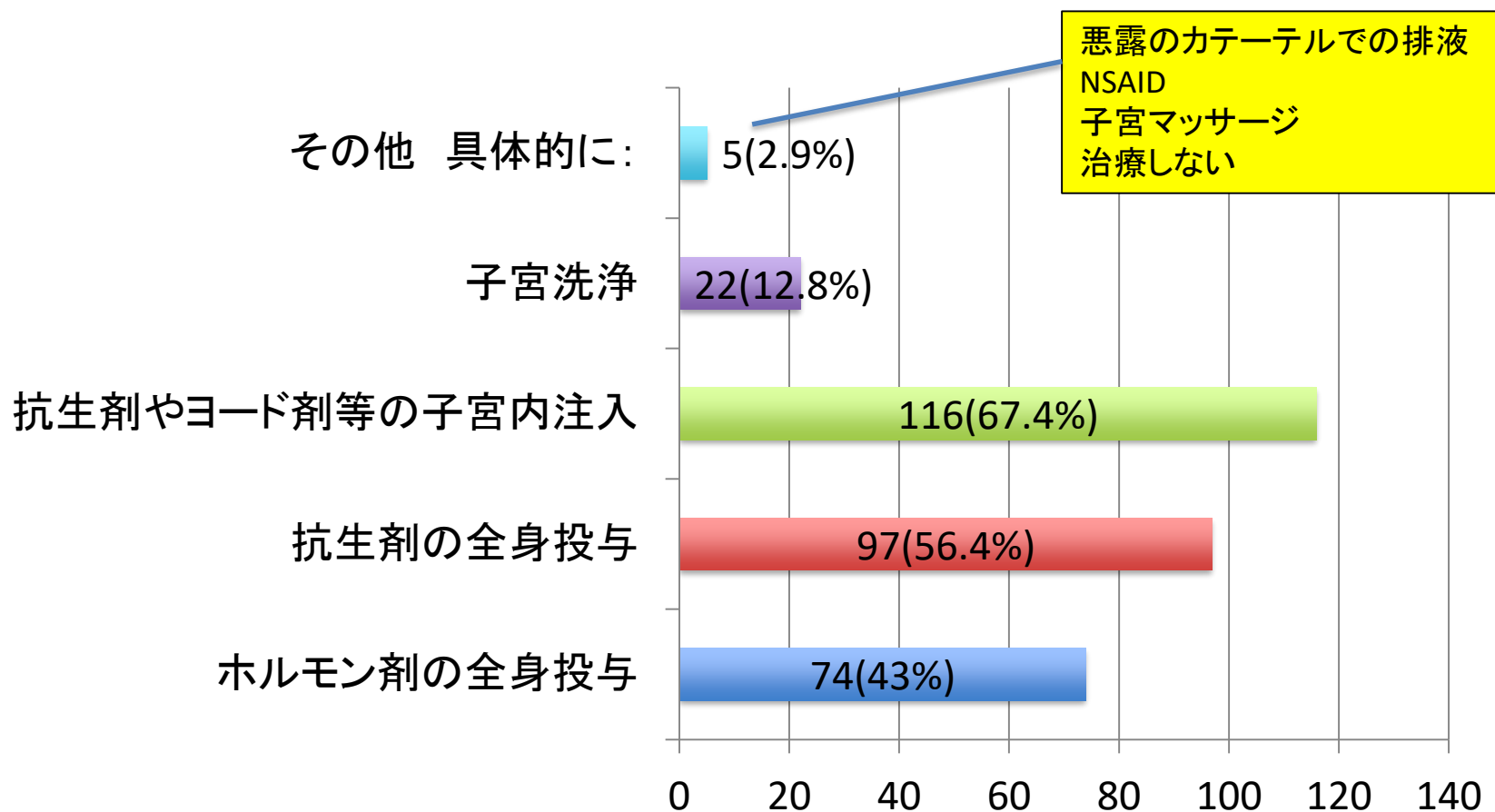
(16) 難産であった牛や胎盤停滞牛に対して、フレッシュチェック(分娩後30～40日の牛に対して子宮および卵巣の回復状況の検査)を実施していますか？(回答は1つ)



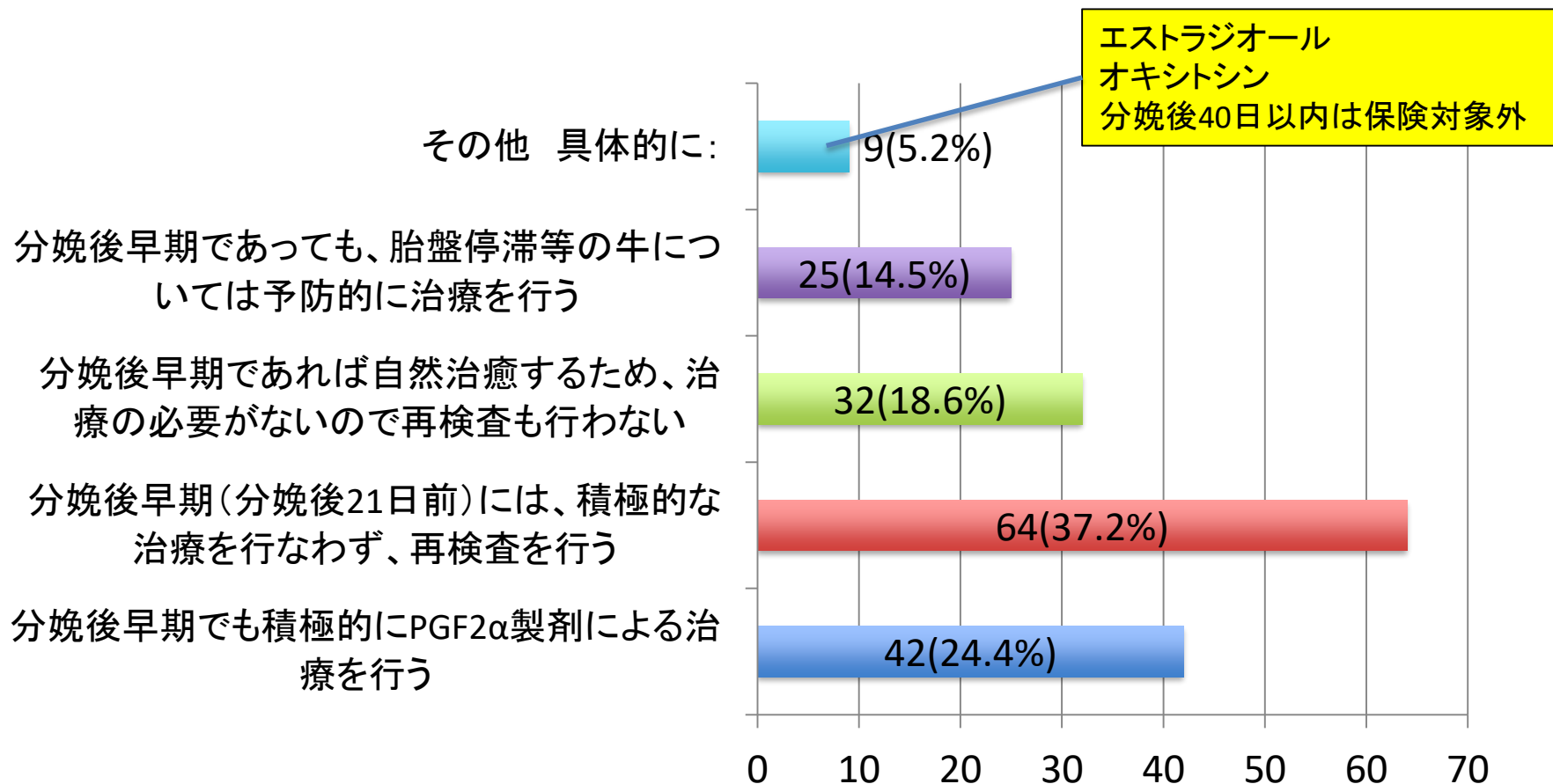
(17)リピートブリーダー牛に対する潜在性子宮内膜炎の検査を実施していますか？(回答は1つ)



(18)あなたが産褥期における子宮炎の治療を行う際に、よく行う治療法は何ですか？(回答はいくつでも)【子宮炎の治療について】

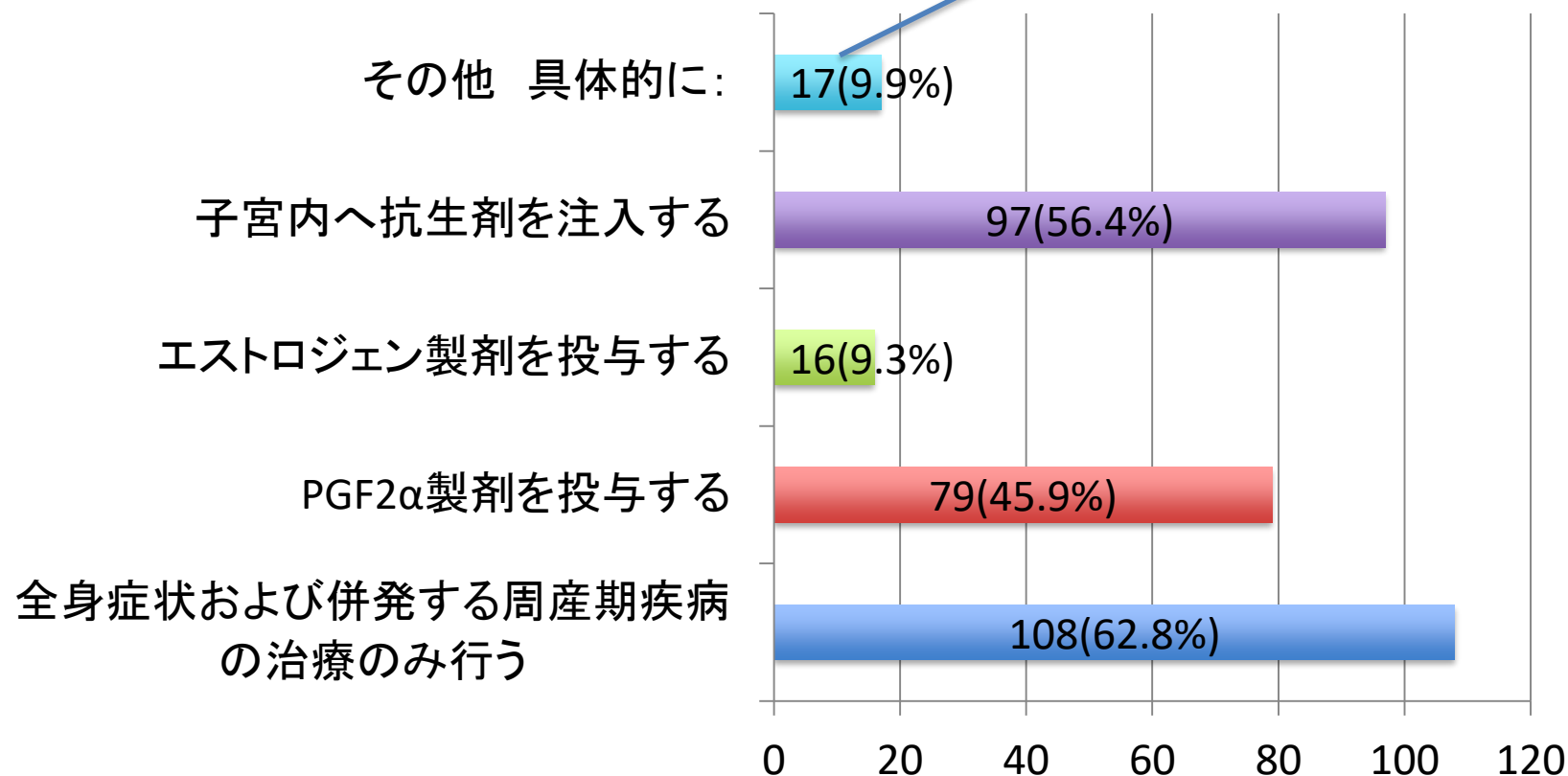


(19) 全身症状を伴わない子宮炎の治療として主に行っている方法を選んで下さい。(回答は1つ)

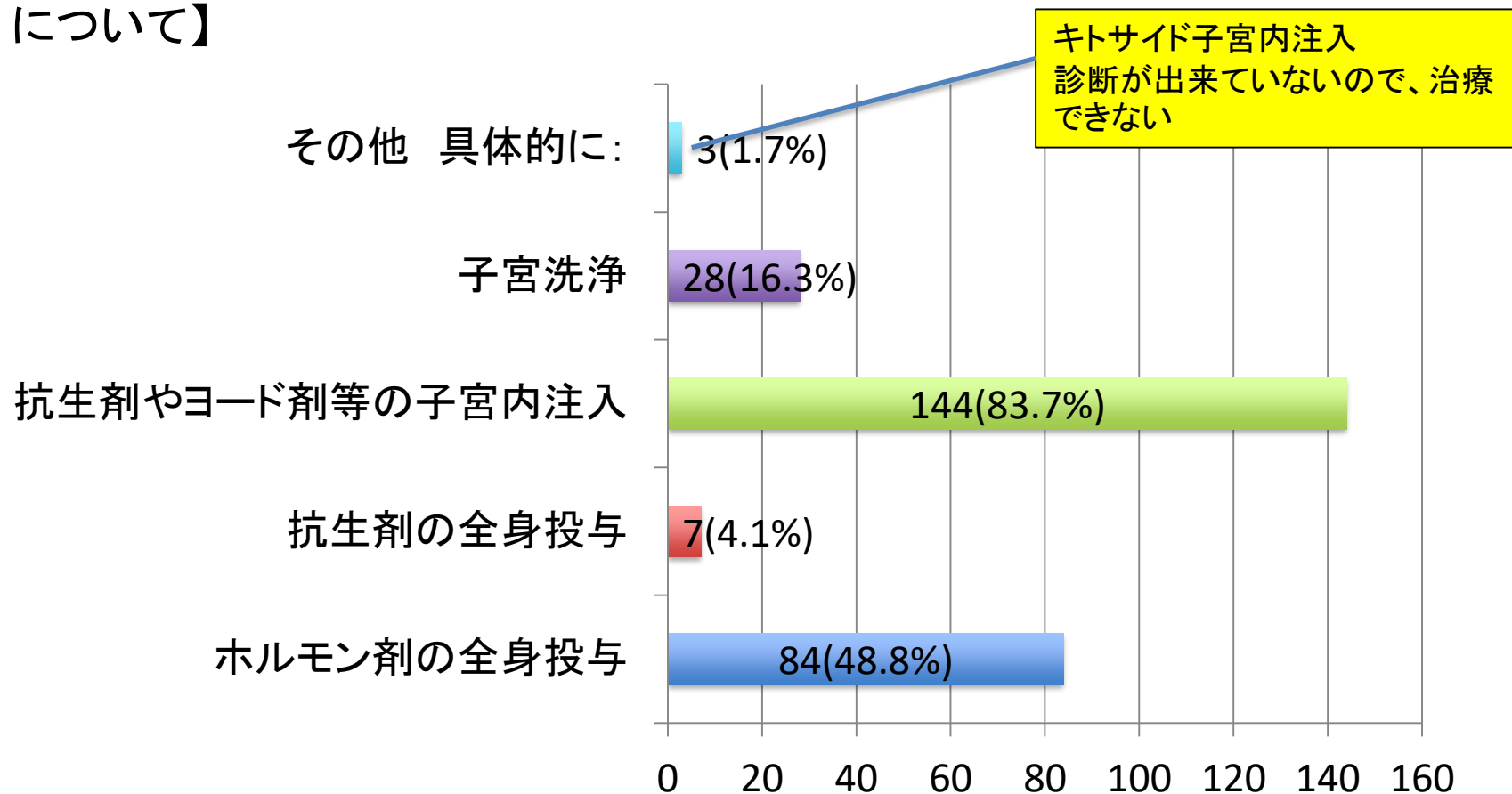


(20) 全身症状(産褥熱・毒血症)を伴う子宮炎の治療として主に行っている方法を選んで下さい。(回答はいくつでも)

抗生剤の全身投与
オキシトシン
子宮洗浄

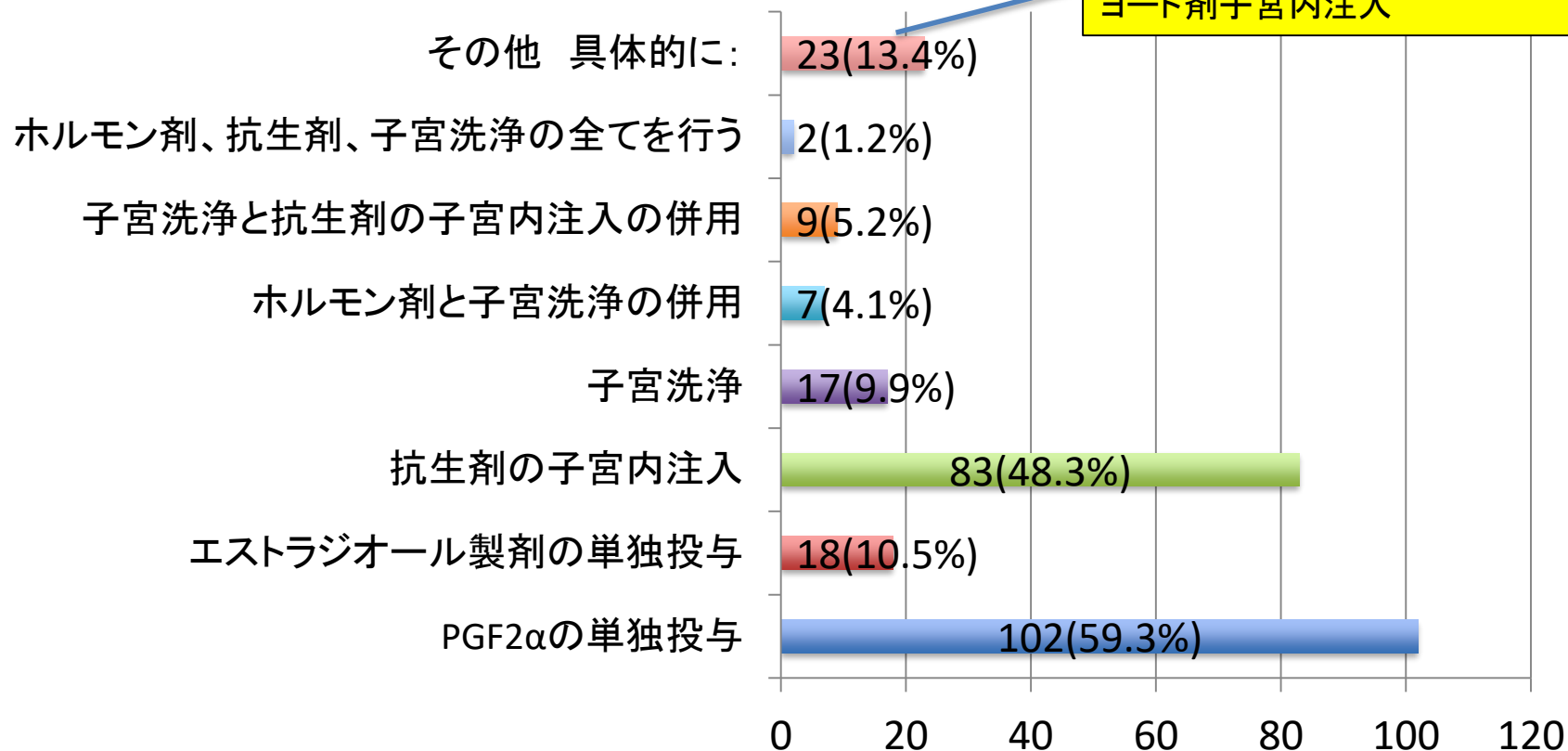


(21)あなたが産褥期以外(繁殖期)における子宮内膜炎の治療を行う際に、よく行う治療法は何ですか？(回答はいくつでも)【子宮内膜炎の治療について】

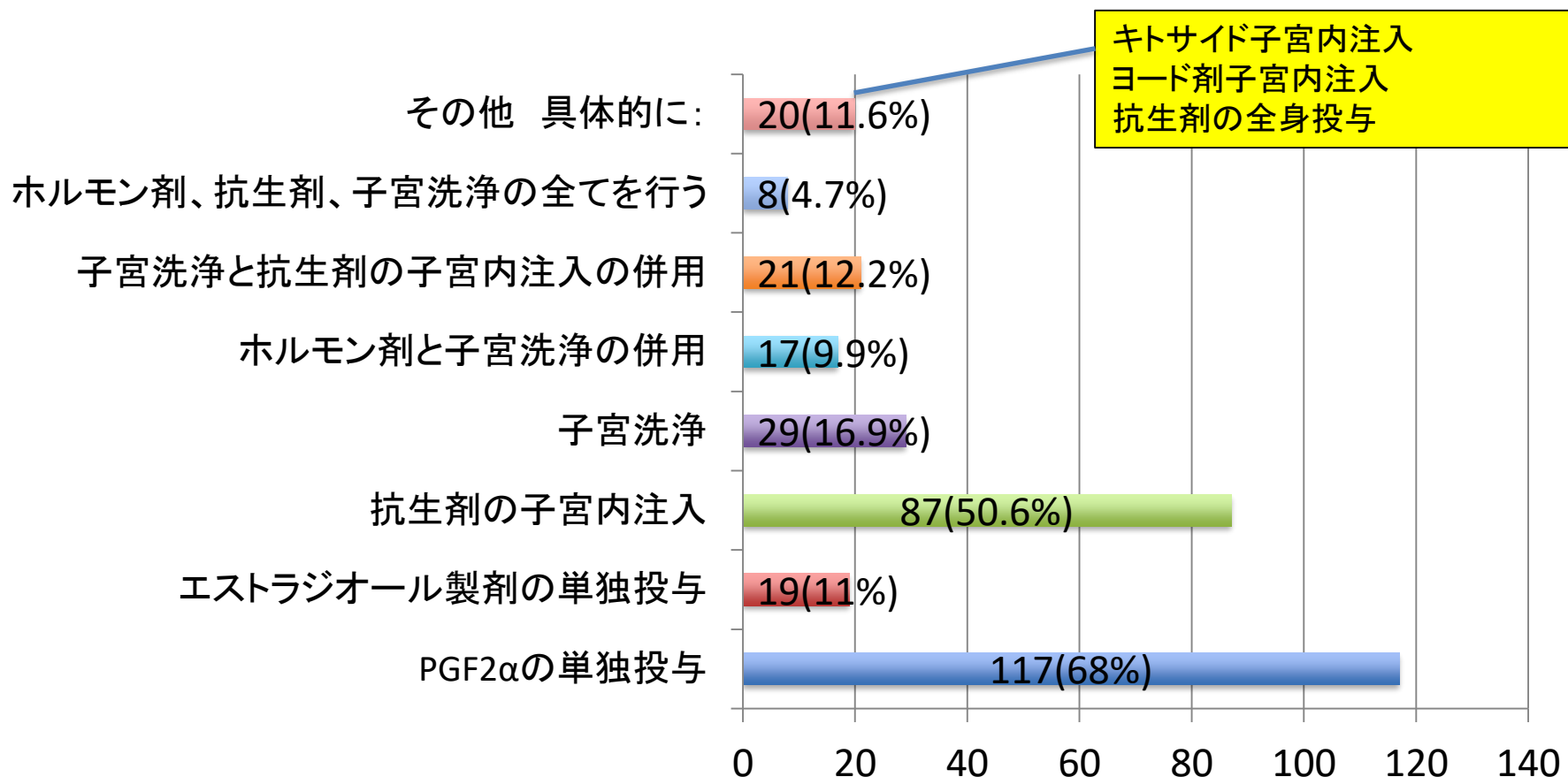


(22)軽度滲出性子宮内膜炎(外子宮口からの異常滲出物の漏出が軽度で、陰門からの異常滲出物は認められないもの)の治療として主に行っている方法を選んで下さい。(回答はいくつでも)

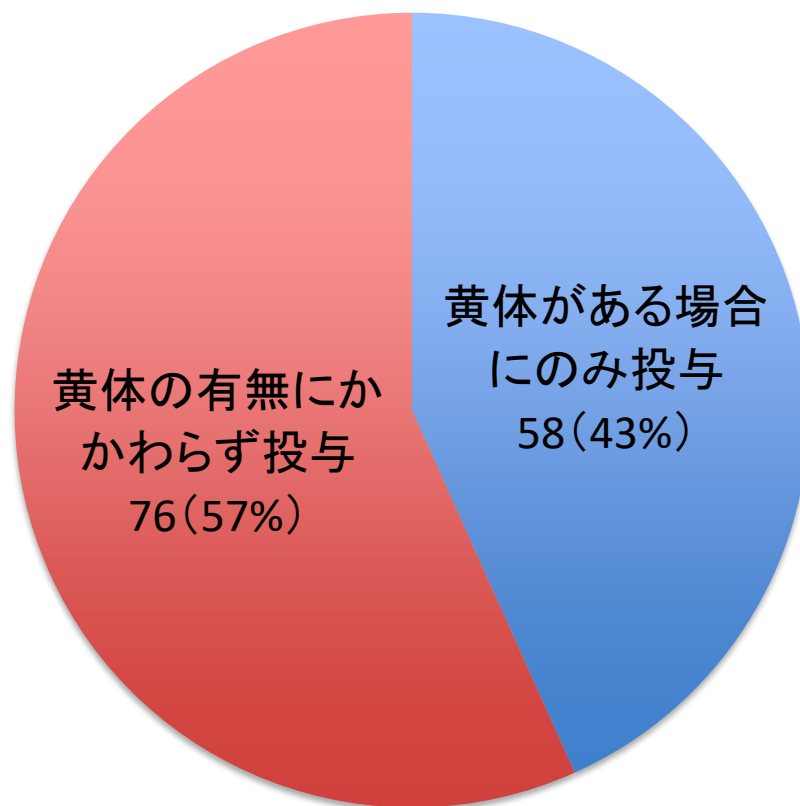
キトサイド子宮内注入
ヨード剤子宮内注入



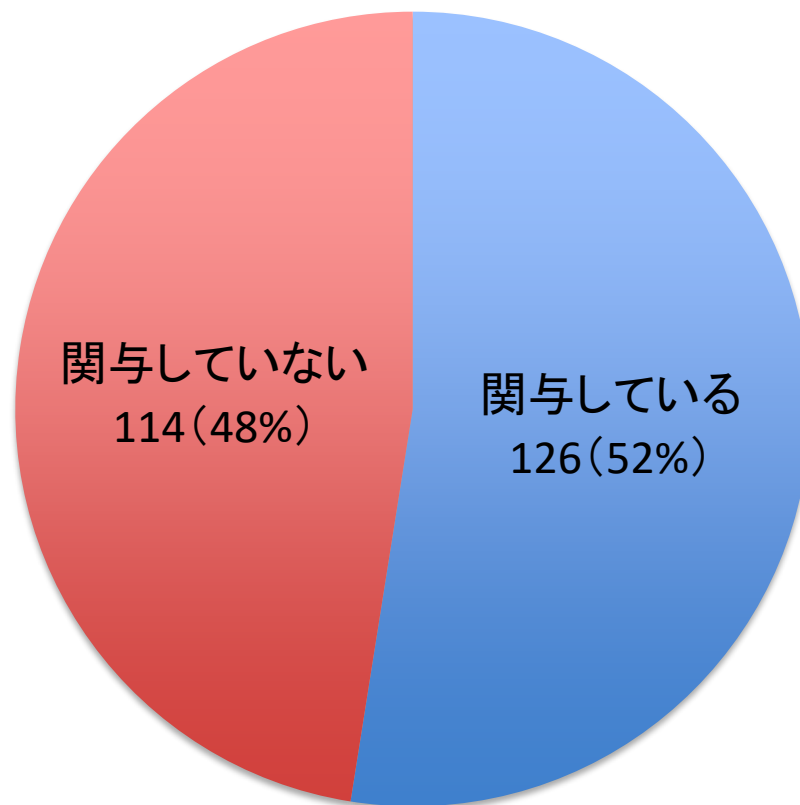
(23) 重度滲出性子宮内膜炎(外子宮口からの異常滲出物の漏出が重度で、陰門からも異常滲出物が多量に認められるもの)の治療として主に行っている方法を選んで下さい。(回答はいくつでも)



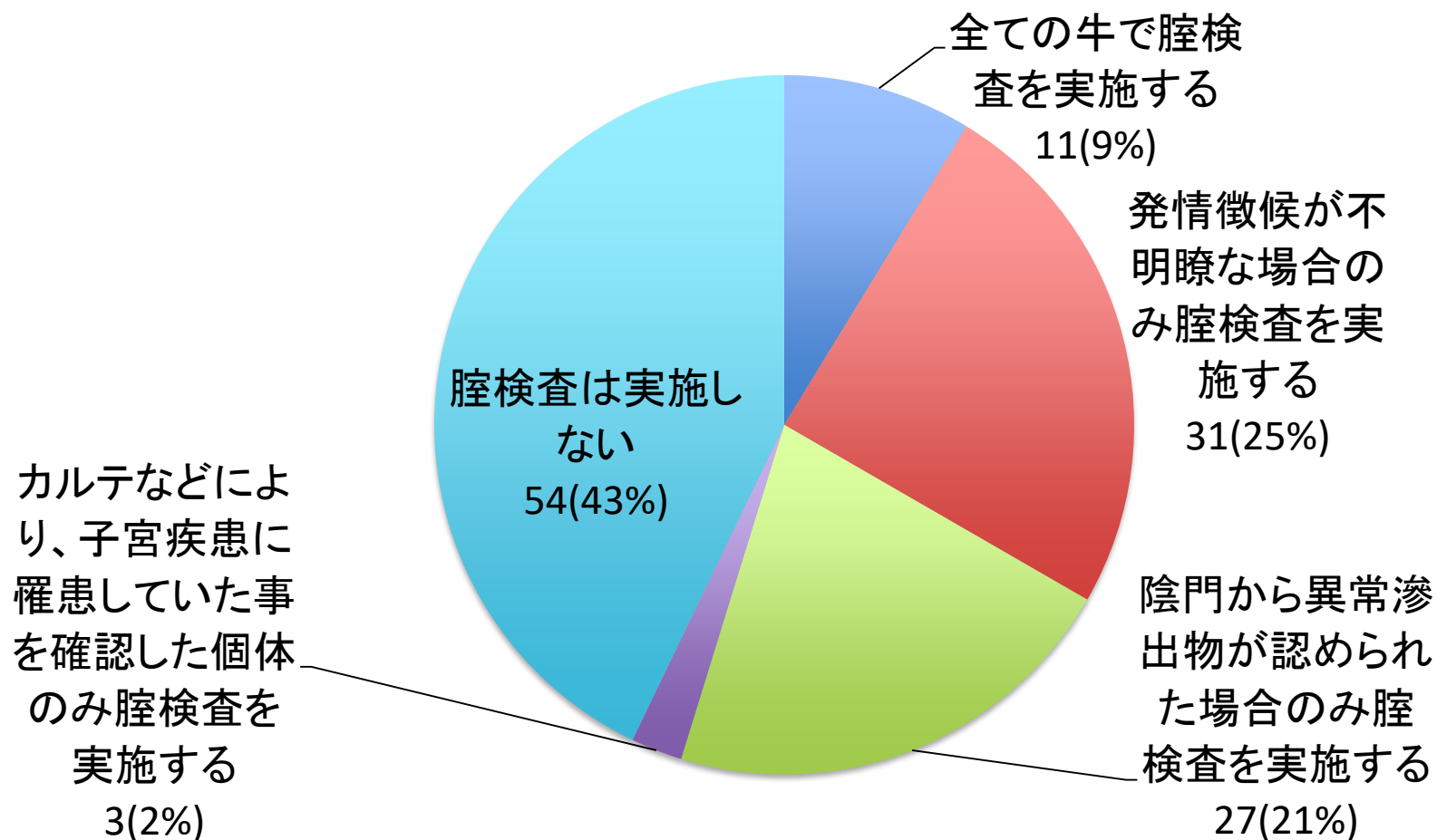
(24)どのような牛にPGF2 α を投与しますか？(回答は1つ)Q22またはQ23で子宮内膜炎の治療に「PGF2 α の単独投与」を選択された方にお聞きします。



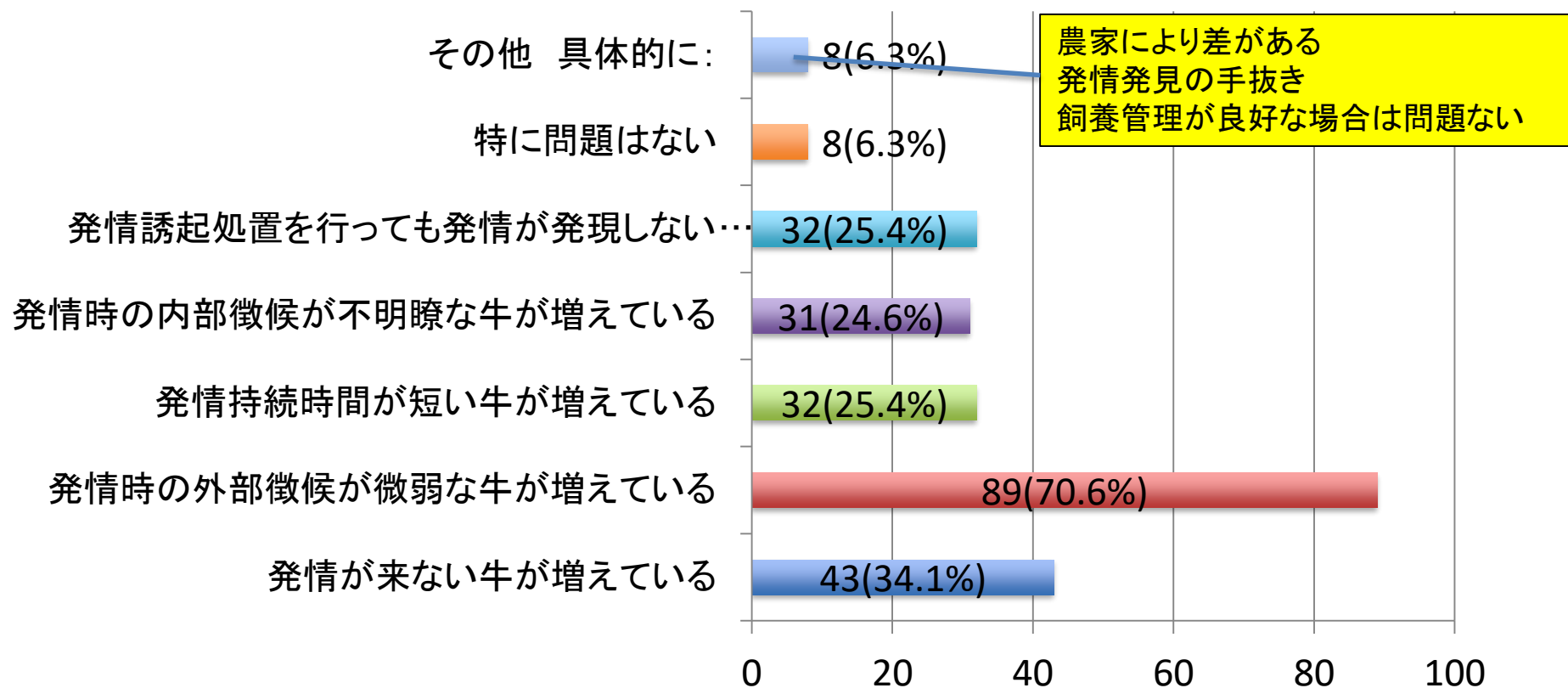
(25)あなたは日常業務で人工授精・受精卵移植に関与していますか。(回答は1つ)【人工授精時の対応について】



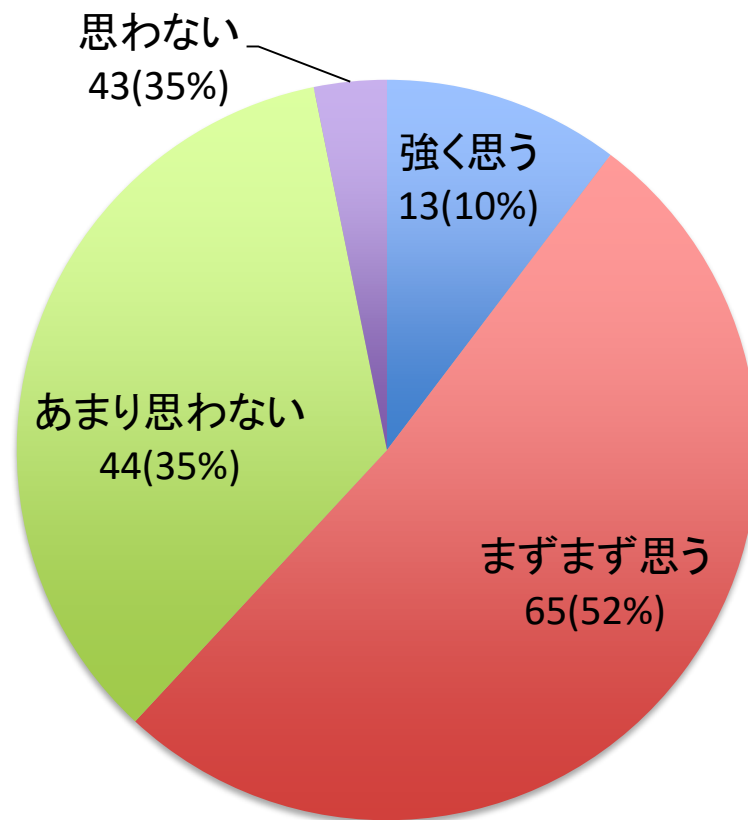
(26)人工授精時の発情鑑定の際に、膣検査は実施しますか？(回答は1つ)



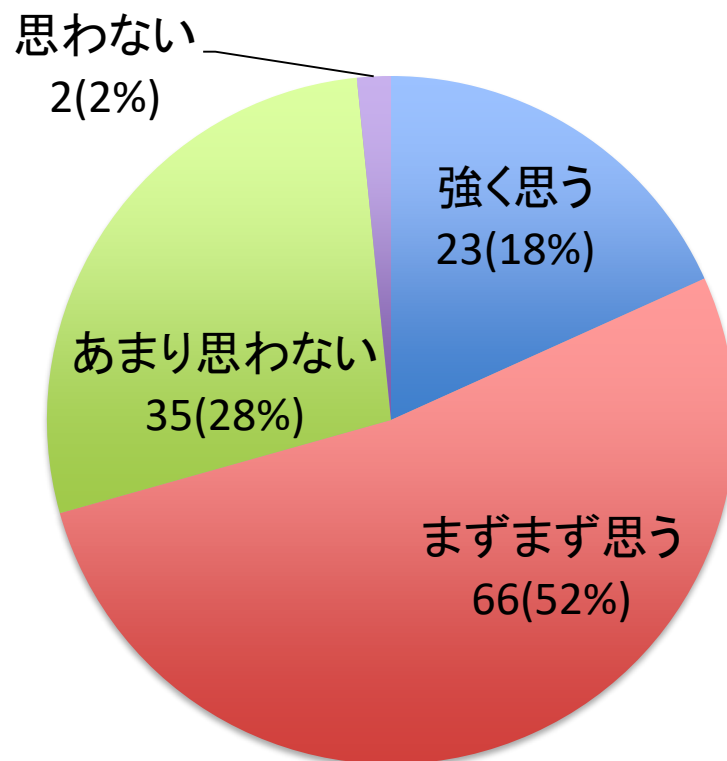
(27)あなたの担当する農家で、分娩後の任意待機期間(農家で発情が来ても人工授精を実施しないと設定した分娩後日数)を過ぎても発情が来ない牛や発情発見が難しい牛などが増えていると感じますか？(回答はいくつでも)



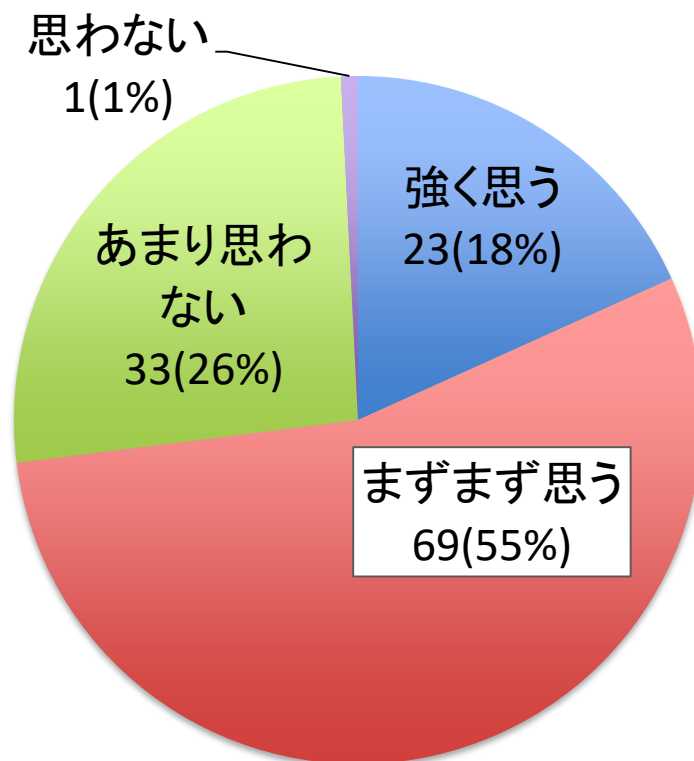
(28)あなたは発情周期が乱れている牛が増えていると感じますか？(回答は1つ)



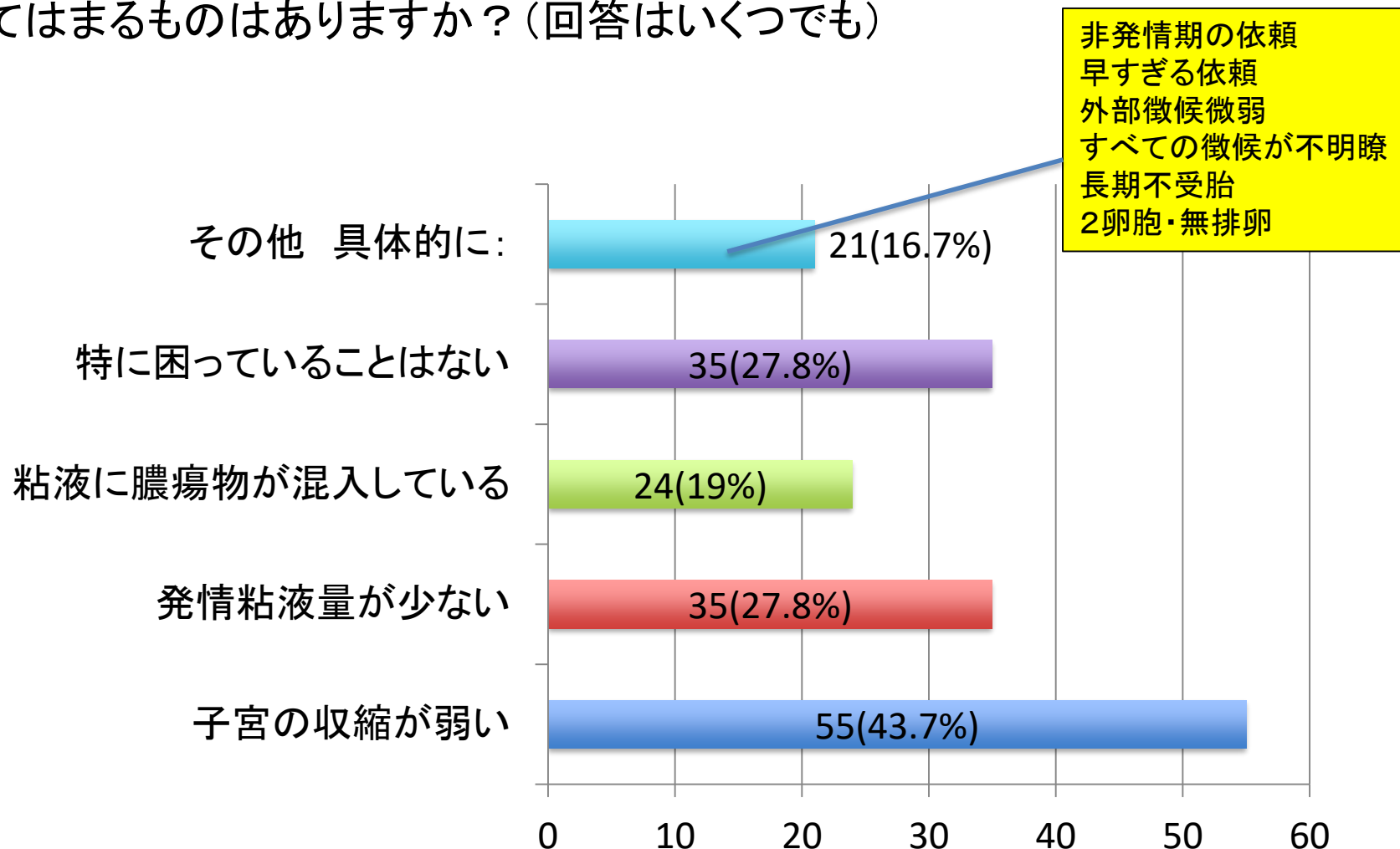
(29)あなたは繁殖障害で治療が必要な牛が増えていると感じますか？(回答は1つ)



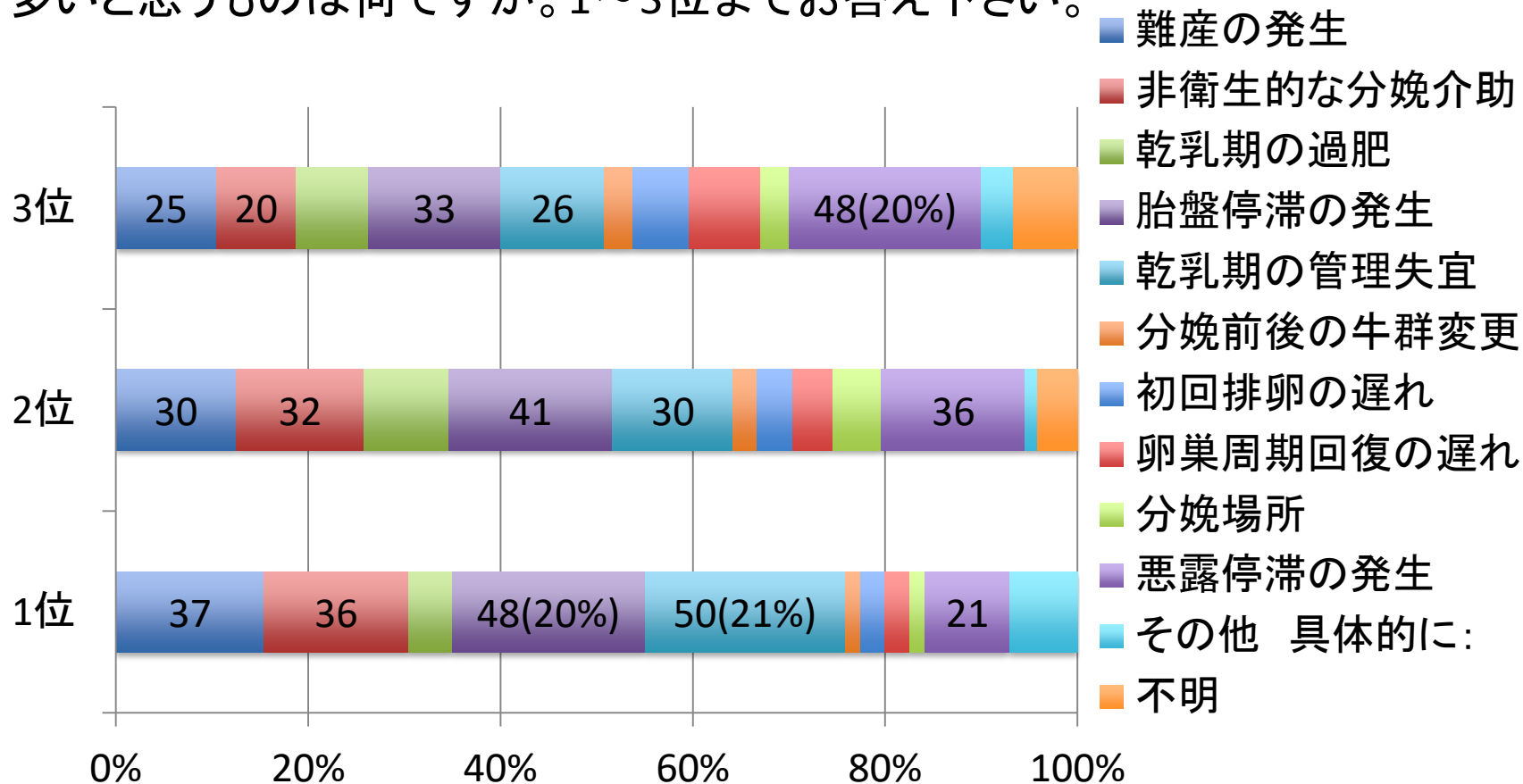
(30)あなたは受胎率が低下していると感じますか？(回答は1つ)



(31)あなたが人工授精を依頼されたときの牛の状態で困っていることで当てはまるものはありますか？(回答はいくつでも)

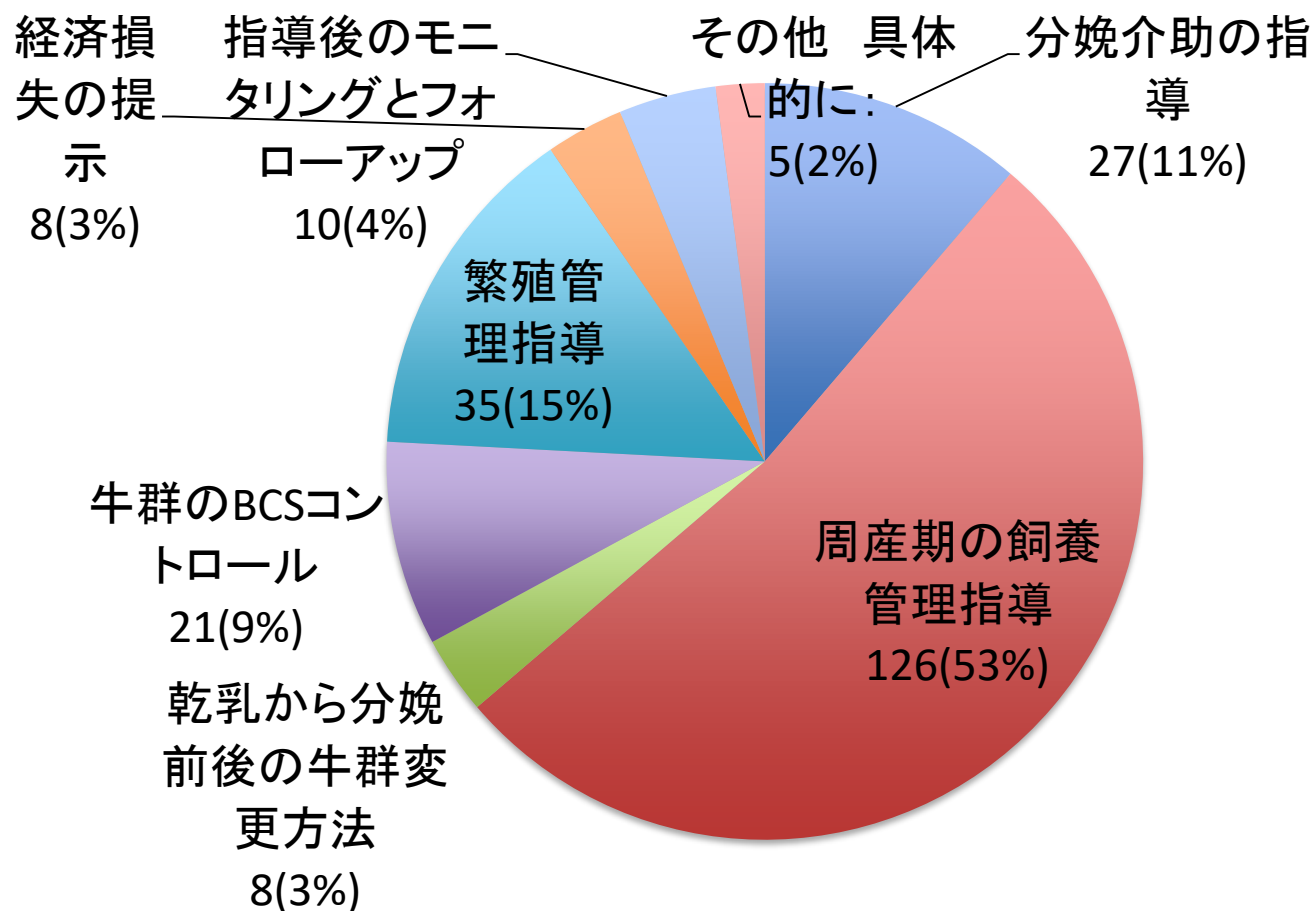


(32)子宮炎・子宮内膜炎の発生要因の中で担当農家について特に問題が多いと思うものは何ですか。1～3位までお答え下さい。

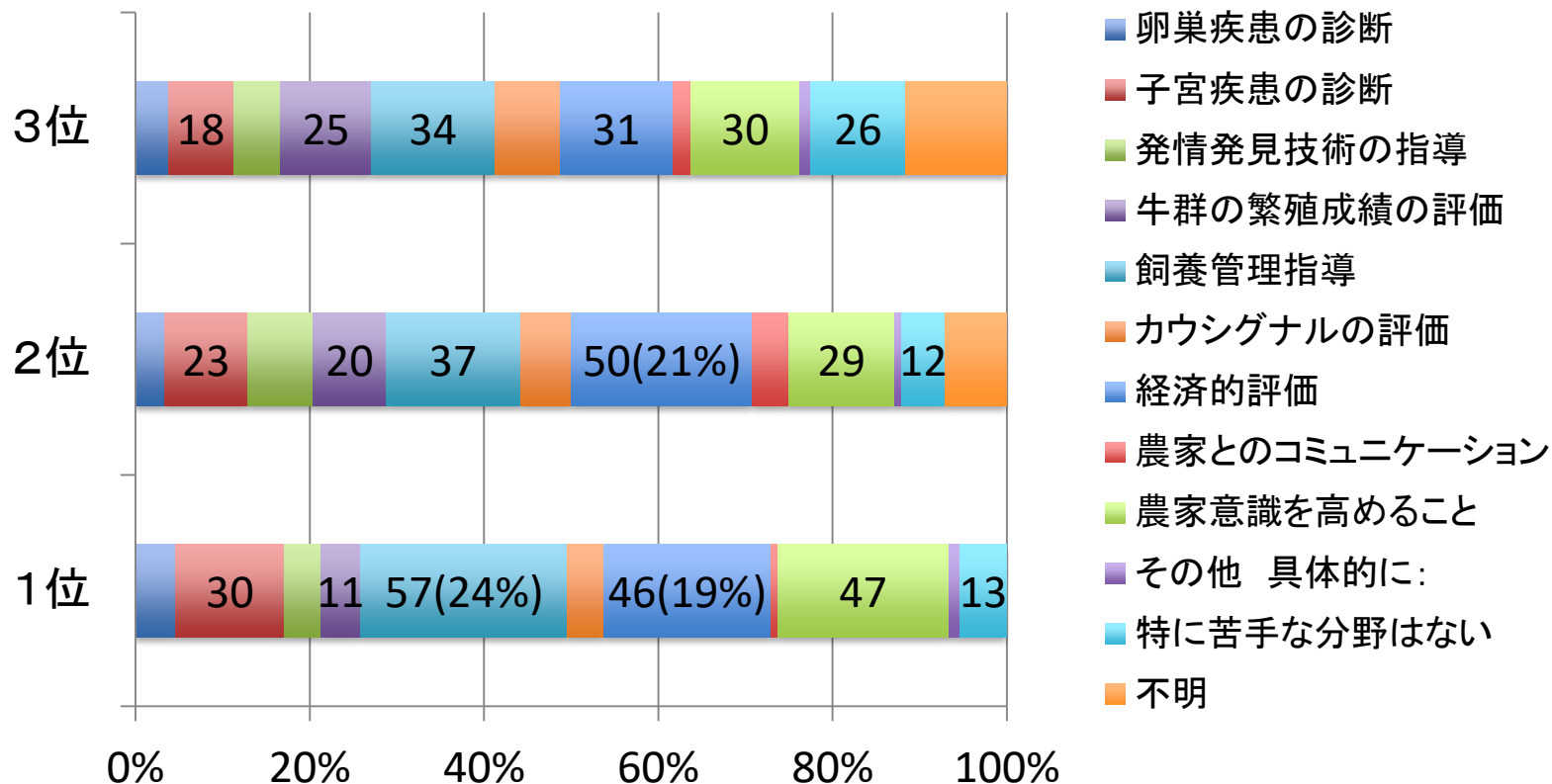


BCSの低下
周産期病の発生
尿腔
飼養管理

(33)子宮炎・子宮内膜炎のための指導で特に必要と思われるものを選んでください。あなたの考える項目を選択して下さい。(回答は1つ)



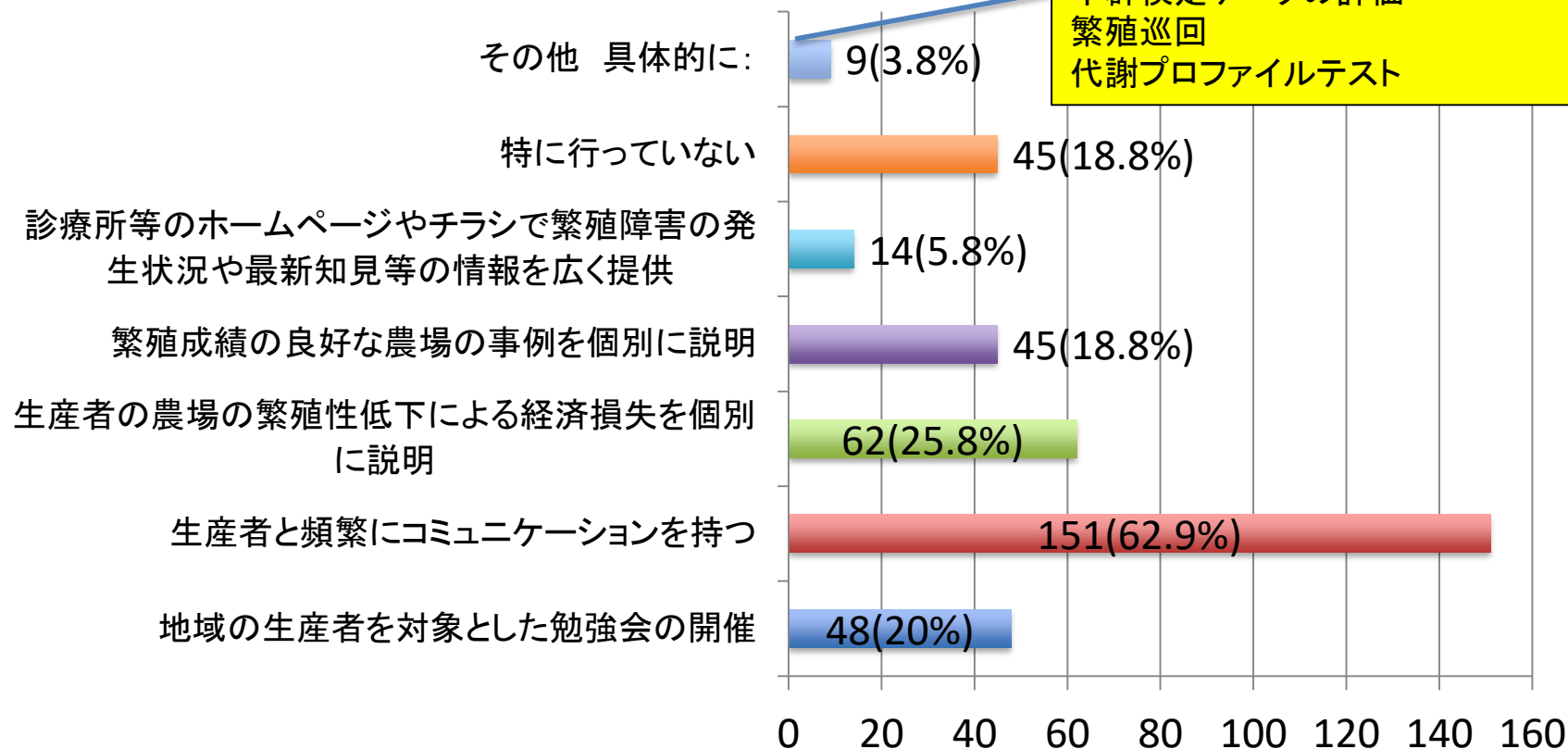
(34) 次のうち苦手な分野を、1～3位までお答え下さい。(回答はタテの列ごとに1つずつ)



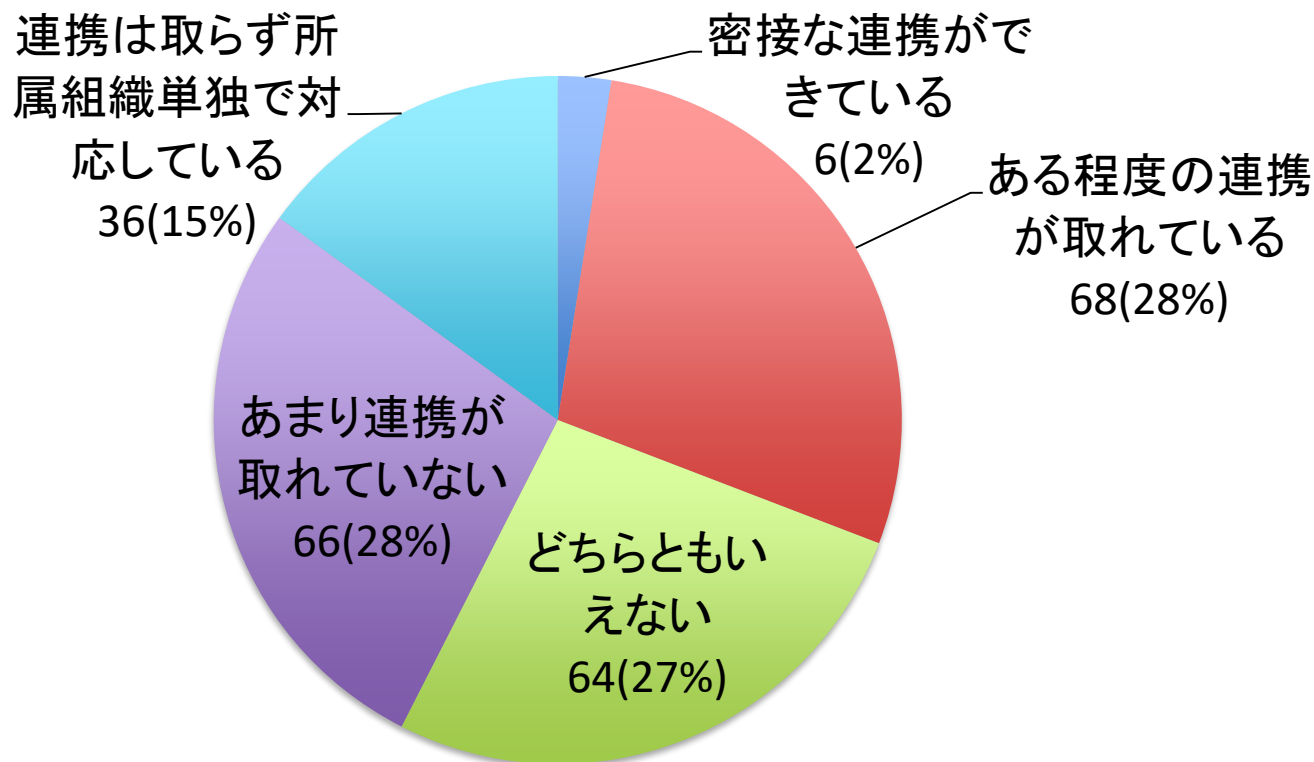
全般
免疫
素早い子宮洗浄

(35) 農家の繁殖性向上に対する意識を高めるためにどのようなことを行っていますか？(回答はいくつでも)

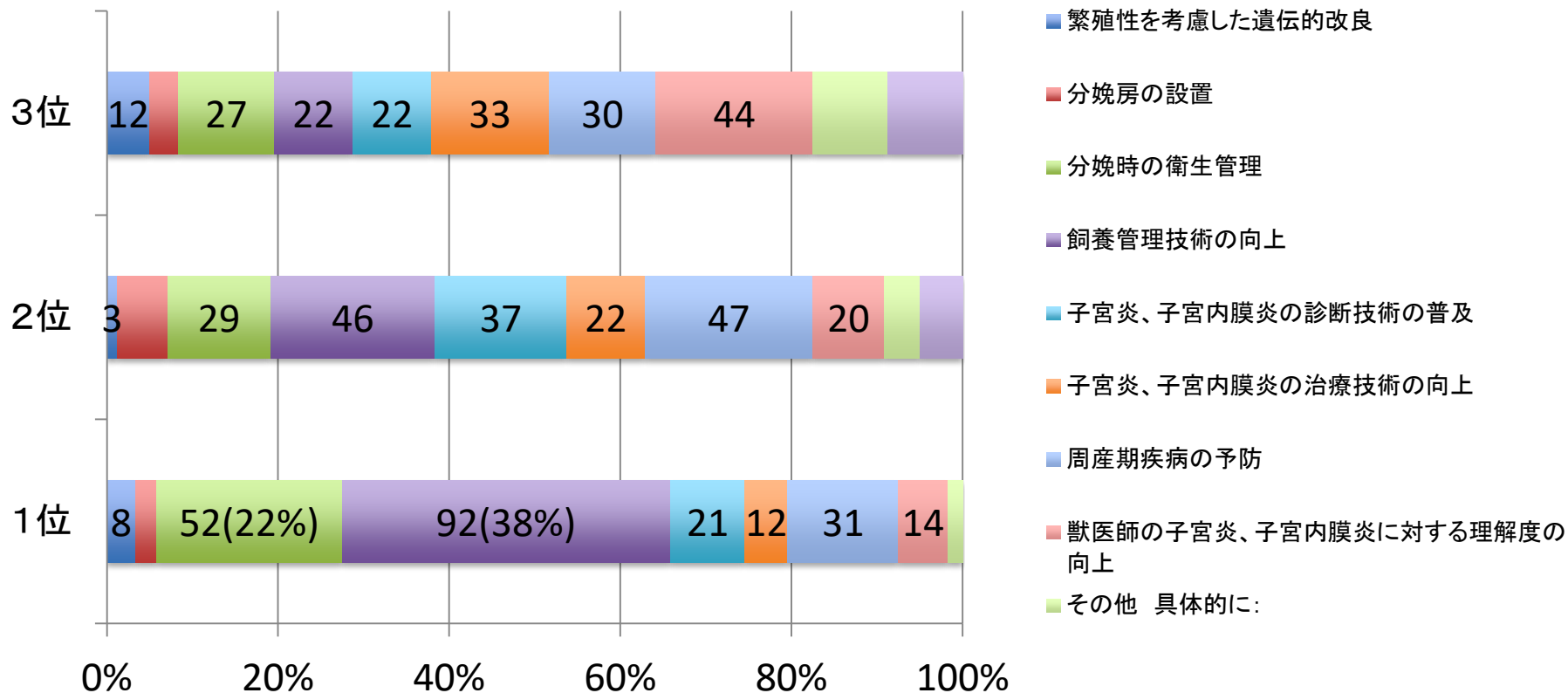
繁殖成績分析
繁殖管理の試験研究要望調査
牛群検定データの評価
繁殖巡回
代謝プロファイルテスト



(36) あなたの地域では繁殖成績向上のための畜産関係機関(JA、NOSAI、家畜保健衛生所、試験場、大学など)との連携(情報交換、役割分担)はできていますか？(回答は1つ)

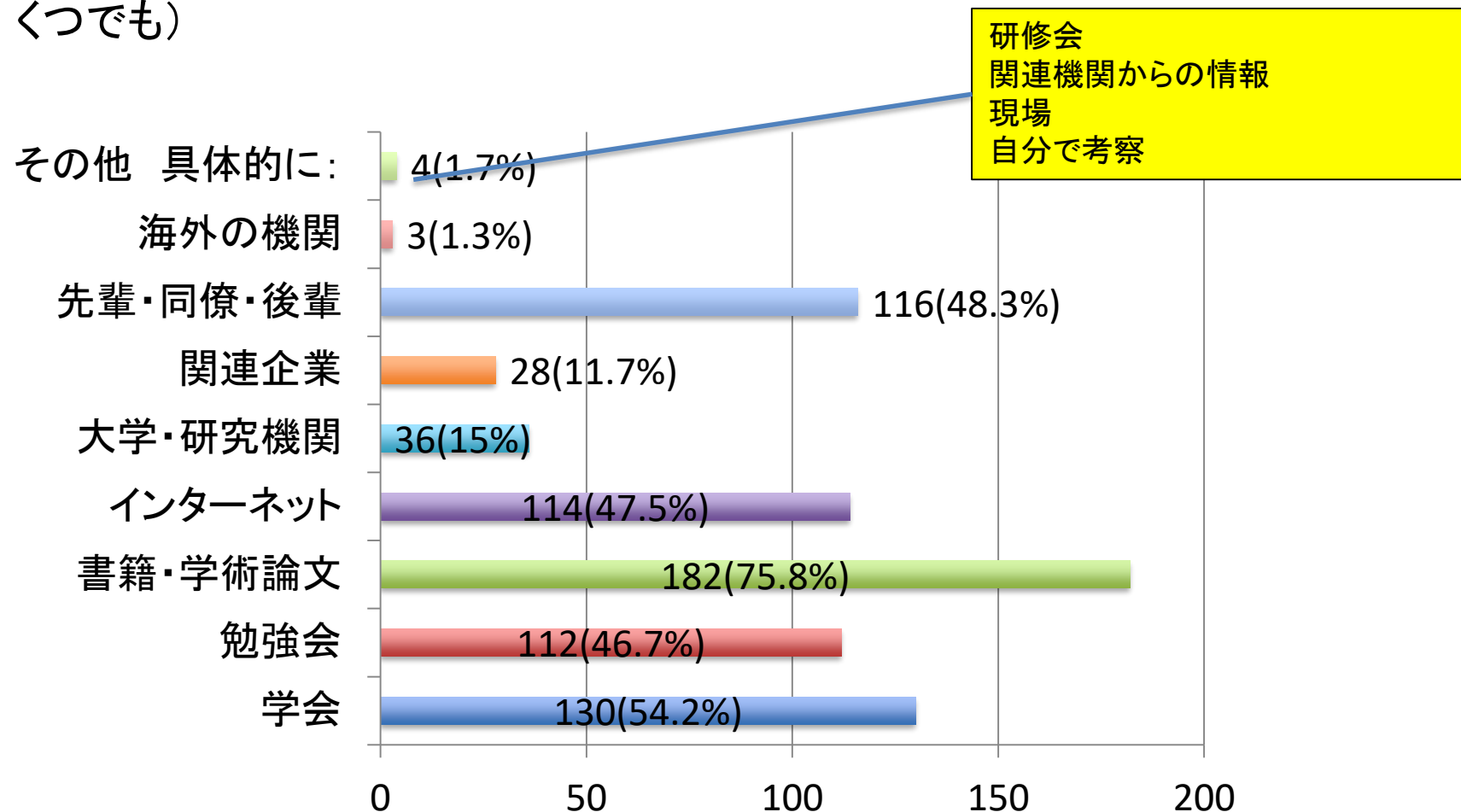


(37)子宮炎、子宮内膜炎防除のために大きく寄与すると思うものを、1位から3位までお答え下さい。



過肥
アシドーシス予防
免疫力向上
着床・妊娠認識因子の解明
獣医師の総合能力向上
リピートブリーダーの原因解明

(38)繁殖障害に関する情報入手はどのようにされていますか？(回答はいくつでも)



まとめ

本アンケート調査を実施することによって、全国の臨床獣医師等の子宮炎・子宮内膜炎に対する診断法、治療法および意識を具体的数値として表すことができた。この結果、獣医師による診断および治療方法、意識に違いが見られることが示されたが、実際の生産現場の現状を評価する上で貴重な情報と考えられた。

今回の結果では、子宮炎・子宮内膜炎の診断に腔検査を実施している獣医師は5割に満たず、5年前のアンケートと同様に腔検査の実施率が低いことが明らかとなった。

- 本調査によって、「子宮炎・子宮内膜炎の各々を診断（類症鑑別）しているか」の設問で5割弱の獣医師が子宮炎と子宮内膜炎の区別が曖昧であると回答し、4割弱が診断していない。
- このことは、子宮内膜炎という名称が子宮炎および子宮内膜炎を含む子宮疾患全般を示す用語として誤って認識されていることを示唆している。
- 子宮疾患を正確に診断し、適切な治療を行うためには、臨床獣医師だけでなく大学等教育機関ならびに研究機関等の生産現場を支える人々が、子宮疾患の明確な定義等の知識の普及が重要であると考えられる。

謝辞

本アンケート調査は、家畜感染症学会の平成27年度事業計画に則って行われており、実施に賛同頂いた会員各位に深謝する。実施に当たり、各都道府県から72名のコア協力者の依頼により各地域において延べ240件の臨床獣医師等にアンケートを回答頂いた。これらの方々のご協力ならびにご尽力に、心より感謝する。